週刊 YEARBOOK

1996 平成8年

日録20世紀

2|2
平成11年2月2日発行
(毎週1回火曜日発行)
第3巻第4号 通巻96号
平成10年8月21日第三種郵便物認可
¥560
講談社

ペルー日本大使公邸占拠!

"ケンカ中坊"、住管機構社長に就任!
猛威!「病原性大腸菌O157」の恐怖
15年目に終止符! ダイアナ妃ついに離婚

日本政府の“平和的解決”とは何もしないこと「ペルー日本大使公邸占拠事件」勃発！

72人の「人質生活127日」

▲1997年4月22日、午後3時23分、日本大使公邸で爆発音がし、白煙が上がった（写真）。127日間にわたる人質生活からの、解放劇の始まりである。　原田浩司　共同通信社

一九九六年一二月、ペルーの首都・リマにある日本大使公邸が、六〇〇人近くを招いて行っていたパーティーの最中に、過激派ゲリラに襲撃され、占拠された。招待客は人質とされ、順次解放されたが、日本人二四人を含む七二人が、翌年四月まで、実に一二七日間もの人質生活を余儀なくされたのである。

MRTA一四人が襲撃日本大使公邸を占拠

「ドドーン」という爆発音が響いた後、一呼吸おいて、「タンタンタン」という乾いた小銃の連射音が聞こえた。華やかに開かれていた、ペルーの首都・リマの日本大使公邸のパーティー会場は、あっという間に修羅場と化したのである。

異変は、一九九六年一二月一七日午後八時一五分（現地時間、以下同。日本時間一八日午前一〇時一五分）に起こった。

「私は同席した人と、『車爆弾かな、久しぶりに聞く音だね』なんてのんきな話をしていました。実際、ペルーでは、しばらく前まで、何度も聞いた音でしたから、さほど驚きませんでした。ところがそのすぐ後、続けざまに銃声がすると、爆発音のした方向から、招待客が一斉に公邸の建物に向かって走り出しました」

当日、招待客として出席していた斎藤慶一・丸紅リマ支店長（四九）は、トゥパク・アマル革命運動（MRTA）による日本大使公邸占拠の瞬間を、こう語る。

この日、公邸では、天皇誕生日を記念するパーティーが開かれていた。ペルー

▲1997年4月22日、ペルー政府が日本大使公邸に特殊部隊を突入させた日、みずから戦略を練ったフジモリ大統領（写真中央）が現場に駆けつけた。　原田浩司／共同通信社

◀事件解決には、陸海空三軍で編成された特殊部隊の精鋭約一四〇人の力が大きかった。写真は、テラスで歓声をあげる兵士たち。　荒井聡　朝日新聞社

▶一九九六年一二月一七日、MRTAが日本大使公邸を襲撃した直後の映像。MRTAのコマンドが、人質をはがい締めにしている。翌年の人質解放後に、テレビ放映された。　共同通信社

◀突入の日、緊迫した日本大使公邸前。負傷した特殊部隊の兵士が、救急車で病院に運ばれる。午後四時一〇分頃の撮影。　原田浩司／共同通信社

◎表紙　ＭＲＴＡ指導者のネストル・セルパ（写真左）は、公邸に入った報道陣に、「平和的解決をめざしている」と語った。　原田浩司　共同通信社

▶ＭＲＴＡの襲撃から一夜明けた1996年12月18日朝、日本大使公邸の窓から、外をうかがう二つの人影が見られた。
ロイター・サン／共同通信社

各界の要人、ペルー駐在の日本人、日系移民の一世、二世など、六〇〇人ほどでにぎわっていた。

そのなごやかな雰囲気を中断させたのは、黒っぽい戦闘服に身を固め、自動小銃を空に向かって乱射しながら公邸内に突入してきたネストル・セルパ（四三）率いる一四人のコマンドたちだった。

コマンドの何人かが大声で叫んだ。

「我々はトゥパク・アマル革命運動だ、皆、伏せろ！」

招待客は、やっと事態を把握し、一斉に芝生に伏せた。そしてコマンドの命令で、立ちあがり、縦列に並ばされた後、両手を首の後ろにまわしたまま、公邸の建物の中に入るように命じられた。人質は総勢六〇〇人を超えていた。

これが、一二七日にわたる「ペルー日本大使公邸占拠事件」の皮切りである。

事件直後、東京の外務省では、池田行彦外相が、「人質の安全第一を考える」と日本政府の基本的立場を表明した。一二月一九日、ペルーに着いた池田外相は、アルベルト・フジモリ・ペルー大統領（五八）と二回の会談を持つが、何の成果もないまま二二日午前九時、あわただしくリマを後にする。現地では、ＭＲＴＡが池田を交渉相手に引きずり出そうという動きがあったため、泡を食って逃げ出した、と信じられている。しかも、外相は記者会見の後、質問をした日本人記者に対し、「この野郎、なんで質問したんだ」と暴言を吐き、別の記者に暴行するという〝茶番〟まで演じた。

「日本政府が平和的解決をめざすなら、その方法を示し、各国にも働きかけるべきだが、一向にそれがなされなかった。フジモリ大統領が、アメリカ、カナダ、キューバへと、精力的に動いたのに対し、橋本首相は、まったく影が薄かった。だから内外から日本政府は、手をこまねいて何もしないと受けとめられました」（ジャーナリスト・嶋信彦氏）

人質たちは「大変なことになった」と思ったが、それにしてもこの時点では、人質生活が一〇〇日を超えるとは想像だにしなかった。↖

◀青木大使は「このような事件に遭遇したのは私の不徳のいたすところ」と、公邸で報道陣に語った。
原田浩司／共同通信社

日本政府の〝平和的解決〟とは何もしないこと
「ペルー日本大使公邸占拠事件」勃発！
72人の「人質生活127日」

「人質生活の一番の課題は、精神状態をいかに保っていくかだった」と斎藤氏は言う。

「当初は、明日はどうなるのかという不安と焦燥が、頭の中で躍り出しました。一部屋に一〇人程度で寝るのですが、うなされる人もおり、ＭＲＴＡが『何事か』と、飛んできたほどでした」（斎藤氏）

ＭＲＴＡは、一九八四年にキューバ革命を理想に結成されたペルーの過激派組織だ。しかし、フジモリ大統領の強硬弾圧策の前に、最高指導者のビクトル・ポライ（当時・四〇歳）が一九九二年六月に逮捕され、壊滅状態と思われていた。大統領の弾圧策は、「疑わしきはすべて投獄」と評されたほど苛烈をきわめた。

一方、なぜ日本大使公邸をねらったのか、と問われ、セルパはこう語った。

「ペルーをはじめ各国外交官、日本企業の駐在員など要人が多数集まることと、ほかの国より公邸警備が甘いからさ」

仲間の釈放要求をはねつけた大統領

ＭＲＴＡの要求の基本は、ポライはじめ、獄中にいるメンバーの釈放だった。パーティー出席のため、日本大使公邸に向かう途中で事件を知り、難を逃れたフジモリ大統領は、ＭＲＴＡの要求を強硬にはねつけた。

公邸内の人質たちは、占拠直後の女性、高齢者の解放に始まり、一九九七年一月まで、一三回にわたり順次解放された。しかし、最後まで残された七二人の解放は、事件勃発から一〇〇日を超えても実現せず、膠着状態が続いた。

公邸内では、読書はもとより、麻雀、チェス、オセロ、そしてジグソーパズルとさまざまな暇つぶしがされていた。

年が明けた一九九七年四月二二日、青木盛久大使の結婚記念日を祝う麻雀がたけなわの午後三時二三分、突如、「ドカーン」という爆発音が続き、ついで激しい銃撃音が響いた。ペルー陸海空軍約一四〇人の特殊部隊が公邸に突入したのである。約三〇分後、公邸屋上のＭＲＴＡ旗が特殊部隊によって引きずりおろされた。隊員たちは、口々に「ビクトリア（勝利）」と雄叫びをあげる。

一二七日目にして、日本人二四人を含む七一人の人質がようやく解放された。しかし、人質の一人だったペルー最高裁判事と、特殊部隊の二人が犠牲となった。ＭＲＴＡのメンバーは全員死亡した。なお、特殊部隊の突入について、日本政府には事前の通告はなかった。

「事件は終わったが、人質とされた仲間の多くは、まだ心の中に事件を完全に総括できない後味の悪さを残しています。また、私自身は、脱出の際に足の踵を複雑骨折して、今でも完治していません。しかし、これらについて、日本政府からただの一度も被害調査を受けたことがありません。自分が招いた客が災禍にあったとしたら、それを心配するのが当然だと思うのですが」（前出・斎藤氏）

人質たちの麻雀の回数は、半荘九九八回を数えていた。

ロイター／サン・テレフォト
▲4月22日、公邸屋上のテラスづたいに脱出する人質たち。

トンネルを通って突入した

71人の人質を解放したペルー特殊部隊の、公邸へのおもな突入ルートは、地下に掘られたトンネルだった。3ヵ月近くかけて掘られ、公邸の地下にはりめぐらされていたトンネルは、1997年4月初めには完成していたと言われる。枝分かれした部分を含め、全長は100メートル、深いところで地下7メートル、浅いところで3メートル、内部の高さは1.2メートル。したがって、屈強な特殊部隊が移動するには、身をかがめなければならなかった。そのため、特殊部隊は、占拠事件の翌日から「突入」を想定した訓練を連日続けていた。

一方、公邸内の動きを把握する工作も、進められていた。そのルートも、誰に渡されたかも明らかにされていないが、特殊な小型無線機が一部の人質に渡っており、突入直前に、ＭＲＴＡメンバーが息抜きと体力作りをかねたサッカーを始めたことも確認していた。

フジモリ大統領が最終的に突入命令を下したのは、作戦開始の6分前だった。

ＭＲＴＡも、トンネル掘削を知っていた。事実、トンネル掘削を理由にペルー政府との「予備的対話」をボイコットしたこともあった。にもかかわらず、彼らがトンネルの破壊を要求しなかった真意は、今となっては永遠の謎である。

共同通信社
▲事件が解決した後の4月24日、日本大使公邸下のトンネルを視察するフジモリ大統領。

あの末野興産グループを追いつめた剛腕
住専不良債権4兆6000億円の回収に挑む
中坊公平、住管機構社長に就任!

▶中坊公平、昭和4年京都市生まれ。これまで、香川県豊島の産業廃棄物撤去問題や森永砒素ミルク中毒被害者の救済に、全力で取り組んできた。

山口規子 文藝春秋提供

それにしても、住宅金融専門会社(住専)の経営ぶりは、実にデタラメきわまりないものだった。バブル経済の破綻とともに、軒並み、大量の不良債権を抱えこんで立ち往生。ところが、政府や大蔵省は金融秩序維持のために、住専七社があけたその穴を税金で埋めるという。「そんな馬鹿なことがあるか」との国民の声を背景に、〝平成の鬼平〟こと中坊公平が、住専処理のために立ちあがった。

みずから退路を断って債権回収の現場を指揮

「この会社の目的は、住専七社から譲り受けた債権を回収して、そして国民に負担をかけないことである。そのことの一点につきる会社であると理解しております。何が何でも、この目的を達成しなければならない。私はその使命に燃えて、社長に就任いたしました」

平成八年七月二六日、住専から譲り受けた債権を回収する住宅金融債権管理機構(住管機構)の社長に就任した中坊公平(六六)は、記者会見でこう宣言した。

かつて、森永砒素ミルク事件(昭和三〇年)や豊田商事事件(昭和六〇年)などで辣腕を振るい、日弁連会長時代には司法改革を声高に唱えた「ケンカ中坊」らしい歯に衣着せぬ発言であった。

この勇ましい会見に、国民は快哉を叫んだ。なにしろ、住専処理法があっさりと国会を通過し、国民は六八五〇億円の税負担を押しつけられたばかりである。それだけに、「国民に二次負担をかけない」という中坊の言葉は心強かった。

住専七社は、大手銀行などをバックに設立され、不動産向け融資を拡大していったが、バブル経済の崩壊によって総額一三兆一九〇〇億円の債権を残して経営破綻した。担保がなかったり、大きな債務を抱えていたりして、母体行では危なくて貸せないような不動産会社に次から次へと融資すれば、経営が破綻するのは目に見えている。各社の貸付残高(平成六年度末)は、日本住宅金融が一兆八九四三億円、住宅ローンサービスが一兆四二八五億円、住総が一兆六二五四億円、総合住金が一兆一二八四億円、第一住宅金融が一兆五一四八億円、地銀生保住宅ローンが八八四〇億円、日本ハウジングローンは二兆二五四三億円にのぼった。

このうち、回収可能とされる四兆六〇〇〇億円の債権を、住管機構が譲り受けて回収にあたることになったのである。

しかし、いくら大蔵省が回収可能と判断しても、しょせんは不良債権である。そのため、大蔵省が作った住専処理スキーム(枠組み)には、二次的なロスが生じた場合のさらなる国民負担が組みこまれていたのである。つまり、中坊に住管機構の社長を託した大蔵省でさえが、内心は回収に懐疑的だったわけだ。

もちろん、債権回収が困難なことは中坊にもわかっていた。が、中坊はあえて「なんとしてでも回収する」と言う。

「なぜ、国民に税負担をさせることは悪なのか——大半が住専と関係のない国民に税負担をかけるということは、〝罪なくして人を罰する〟ことになるからです。私が社長に就任したのは、罪なくして人を罰することのないように、法曹の人間としての責任をとるためです。したがって、公正と透明を手法とします」

国民の支持を背景に〝巨悪〟を追い詰める

住管機構社長・中坊公平の最初のターゲットは、派手な〝遊び〟でも名前を轟かせていた末野謙一社長(五二)率いる末野興産グループだった。同グループが五つの住専から借り入れた、総額二三〇〇億円強の八割にあたる一八〇〇億円強が回収不能とされた。しかも、組織的な資産隠しがさかんに指摘されていた。

末野は平成八年二月の衆院予算委の参考人招致で、「会社の財産を全部処理しても半分くらいしか返せない」と発言し、返す意志のないことを明らかにする。だが、中坊は「借りたものは返してもらう。隠し資産を見逃すわけにはいかない」と

▲住専処理のため、6850億円の公的資金を投入することに反対する集会やデモが各地で行われた。写真は3月3日、東京・日比谷公会堂での集会後、銀座までのデモ行進。 朝日新聞社

(株)住宅金融債権管理機構

共同通信社

▲平成8年7月26日、住宅金融債権管理機構が正式に発足。中坊公平(写真右)が社長に選任され、新しい〝闘い〟が始まった。

▲回収について、部下と綿密な打ち合わせをする中坊。新宿の住管機構で。

読売新聞社

回収のチャンスをうかがう。

「末野興産というのは、住専の典型的な事件だと思う。回収不能と言われたが、私は本当に回収できないのだろうかと考えました。一連の報道から、〝末野は財産隠しをしているんだなあ〟と見ていた」（中坊）

八月五日、住管機構は、地検に押収されていた末野の割引債二〇七億円を差し押さえる手続きをとった。四日後の九日には、末野の弁護士の預金口座から約二三億円を差し押さえる。さらにその三日後、ペーパーカンパニー名義の預金など七二〇億円を差し押さえた。そして九月、二〇の金融機関に分散されていた七五億円と不動産約一五〇億円も押さえた。

こうなると末野サイドも必死で資産隠しの奥の手を駆使する。隠し預金を銀行の振り出す小切手に切り替え、それを手持ちする「空中遊泳」と呼ばれる手法である。しかし、追跡チームは逃がさない。振り出した銀行に支払いを禁止する仮処分手続きをとり、総額七九億円分の小切手を押さえた。また、末野の保釈金一五億円も差し押さえる。

「末野はありとあらゆる手段で資産隠しをはかってきましたが、住管機構は一二六五億円を差し押さえた。これは回収不能額一八〇〇億円強の実に七〇パーセントにあたります」（中坊）

末野サイドは、住管機構に対して任意整理の申し入れをするが、中坊は「汚ない人と手を組んで、なあなあの話にするわけにはいかない」と、末野グループへの破産申し立てを決断。一一月一八日、大阪地裁は末野興産とグループ二社、そして末野謙一ら二人に破産を宣告――。

その後も、中坊は追及の手をゆるめない。債権約四兆六〇〇〇億円のうち、平成一〇年九月末で累計約一兆二五〇〇億円を回収した。さらに、〝ミスター住専〟と呼ばれた庭山慶一郎・日本住宅金融元社長から一億二〇〇〇万円の私財を投げ出させる一方で、「住専をゴミ箱にした」と住友銀行を相手取って四八億三〇〇〇万円の損害賠償請求訴訟を起こすなど、まさに快刀乱麻を断つ働きぶりだ。

日弁連会長当時から、中坊の活動を追ってきた高尾義彦毎日新聞編集局次長も、

「中坊さんは国民のためにという大義名分を背景に陣頭指揮をとっているが、けっしてタテマエだけの人ではなく、もっとしたたかなタイプ。だから、誰もができないと思っていた一兆円以上もの回収ができた」とエールを送る。

▲5つの住専から2300億円強を借用した末野興産・末野謙一社長。

共同通信社

◀住専の大口貸付先、桃源社・佐佐木吉之助社長。競売入札妨害容疑などで逮捕。

共同通信社

女たちの肖像

「アムラーファッション」で全国の女子中高生を虜に！安室奈美恵の実力とセンス

稲葉真弓

この年、髪はサラサラのロング、おヘソの見えるチビTシャツに下はショートパンツ、足を長く見せる厚底の靴や白のロングブーツという〝アムラーファッション〟で日本中の女子中高生の間を席巻したのが、歌手の安室奈美恵（一八）である。

前年の平成七年、NHK紅白歌合戦に初出場して話題を呼んだ彼女の人気は、年が明けても衰えず、この年七月にリリースしたアルバム「SWEET 19 BLUES」は初回出荷数三〇五万枚で邦楽史上最高記録樹立、八月には千葉マリンスタジアムで史上最年少の球場コンサート、一二月三一日には、ソロでは最年少の日本レコード大賞受賞と、次々と記録を塗り替えた。音楽界に近年稀な活性剤として君臨した彼女は、〝コギャルの元祖〟として、ファッションにも影響を与えたのである。

彼女の魅力は、エネルギッシュなダンスシーンのかっこよさに加え、ハーフの母親から受け継いだ現代的な容姿、自分の生き方は自分で決めるという芯の強さにある。

昭和五二年、沖縄・那覇市で三人兄妹の末っ子として生まれた彼女が、沖縄のタレント養成学校にスカウトされたのは小学校四年生の時のこと。母子家庭で家が貧しかったため、往復三時間を徒歩でかよった。中学二年の時、「絶対に成功するから」とまわりの反対を押しきって上京、平成四年、「スーパーモンキーズ」の一員としてデビューした。六年に、グループ名は「安室奈美恵withスーパーモンキーズ」に改名。七年、小室哲哉がプロデュースした「TRY ME～私を信じて」が七〇万枚を超える大ヒット。

ソロとなった後も彼女の〝快進撃〟は続き、九年八月には一〇代の歌手として初のシングル・アルバム合計売り上げ二〇〇〇万枚を突破。同夏、史上最年少で初の四大ドームツアーを成功させるというスーパースターぶりを見せている。

きわめつきは、同年一〇月の、突然の入籍・妊娠・結婚会見だった。相手は一五歳年上のダンサー、SAM。少しも悪びれたところのない、とろけそうな笑顔で記者会見する彼女の姿が共感を呼び、「私も早く結婚して幸せになりたい」と早婚出産願望の女性がふえたとも言われている。一〇年五月、長男・温大を出産。一〇月にはCM撮影で活躍を開始、同年末の恒例のNHK紅白歌合戦に出場、歌手復帰をはたした。

▶出身の沖縄アクターズスクールも、有名に。

報知新聞社

勝者・敗者

「自分で自分をほめたい！」有森裕子、絶妙のスパートでアトランタ五輪銅メダルに

阿部珠樹

「初めて、自分で自分をほめたいと思いました」

三番目でゴールした有森裕子（二九）は、かみしめるように言った。聞きようによってはいや味な言葉だが、四二・一九五キロを、全力を振りしぼって走り切った後だけに、実感がこもっていた。七月二八日のアトランタ五輪女子マラソン。タイムは二時間二八分三九秒。有森のメダル獲得は、前回のバルセロナの銀に続く二度目である。だが、反響は、前回をはるかにしのぐものだった。

理由はいくつかある。世界陸上の優勝者・浅利純子（二六）、伸びざかりの真木和（二七）に比べて、有森は、もうピークをすぎた選手と見る向きも多かった。代表の座を獲得できたのも、ライバルが少なく、速いタイムが要求されない夏場の試合を選んで優勝したためで、ペースが速くなる本番のオリンピックでは苦しいのではないか、という見方が一般的だった。足の故障で前回のオリンピックの後、長くレースから遠ざかっていたことも、マイナス要因に数えられていた。加えて、年齢的な問題もあった。

しかし、有森は、そうしたマイナス要因を、たくみなレース運びでみごとに吹き飛ばした。先にスパートしたエチオピアのファッマ・ロバを無理に追いかけず、三〇キロすぎの下りで、満を持して飛び出した。もしスパートが早ければ、ロバを追いかけるのに精力を使いはたし、メダルどころか入賞さえおぼつかなかったろう。また、スパートが遅れていたら、苦手なスプリント勝負に持ちこまれ、やはりメダル圏外に去っていただろう。最後はロシアのエゴロワにかわされたが、二大会連続のメダルは、力を出し尽くしたすえの快挙だったと言える。

有森の奮闘は、オリンピックの後、〝人生論〟風の教訓としてもてはやされたが、オリンピックに合わせたコンディション作りとレース運びのたくみさは、もっと賞賛されてもいいだろう。その方が、マラソンランナー・有森の、真の価値を認めることになるのではないだろうか。

ちなみに、真木は一二位、浅利は一七位という結果に終わった。

▶日体大卒業後、リクルートへ入社。一六四センチ。

共同通信社

1月

▶**ホームレス、強制排除(1月24日)**東京都が庁舎へいたる西新宿の地下道に「動く歩道」を建設するため、早朝、機動隊を導入。段ボールの家100軒と住人の撤去をはかり、4人が逮捕される騒ぎになった。歩道は7月完成。

「FRIDAY」／池田栄次

◀**若田光一、衛星回収に成功(1月11日)**宇宙開発事業団第2期生として、5人の米人宇宙飛行士とともに、スペースシャトル「エンデバー」に搭乗。22時間の船外活動を行い、ロボットアームを操作して目的を達成した。

読売新聞社

AP／WWP

◀**デュポン家相続人、五輪金メダリストを殺害(1月26日)**資金援助してきたアマチュアレスラー(36)を米・フィラデルフィアの豪邸で射殺。2日後、武装して籠城したところを、隙をついた警官隊に取り押さえられた。

▶**「キムタク電車」走る(1月31日)**鐘紡が2月発売の口紅の広告に、SMAPのメンバー・木村拓哉を採用。東京・大阪で、車内を写真のポスターで埋め尽くした電車が走った。

共同通信社

「FRIDAY」／上本正春

◀**米兵、母子3人轢き殺す(1月7日)**沖縄の国道を走っていた女性兵士、ローリー・パディーラ(20)運転の乗用車が、猛スピードで歩道に乗り上げ、主婦(36)、長女(10)、3女(1)が死亡した。

共同通信社

◀**さよなら「クモハ12形」(1月)**昭和初期に製造、チョコレート色の車体、板張りの床などを特徴とする電車が引退。3月には最終運転が行われ、鉄道ファンが鶴見駅を埋めた。

平成8年1月

1(月)●大手スーパー各社、元旦から営業。
2(火)●西宮市の「阪神・淡路大震災」救援ボランティア事務所で盗難、活動記録など盗まれる。
3(水)●東京箱根駅伝で、名門・中大が三二年ぶり優勝。
4(木)●九州北部などに、大量の蛇死骸入り木箱漂着。
5(金)●村山富市首相が、突然の退陣表明。
6(土)●米国、暫定予算成立で、政府窓口閉鎖を解除。
7(日)●警視庁、「歩行者天国」を試験的に一部中止。
8(月)●高速増殖炉「もんじゅ」の事故原因、二次冷却系の温度計破損と判明。
9(火)●脳死容認が五割超すと、読売新聞調査。
10(水)●北海道・北陸に大雪、小樽市は八四㌢の積雪。
11(木)●警視庁が、犯罪被害者の心の傷軽減のため、対策室を新設する方針を決める、と新聞に。
12(金)●首都圏のマンション発売が過去最高と判明。
13(土)●米国、北朝鮮援助に日・韓・欧州の分担を要請。
14(日)●全日本フィギュア、女子で伊藤みどりが四年ぶりの優勝、男子は中学生の本田武史。
15(月)●安保理、クロアチアに暫定統治機構派遣決議。
16(火)●前年の好感度一位タレントは、男・明石家さんま、女・山田邦子とNHK調査。
17(水)●前年の東京地区百貨店売り上げは四年連続マイナスと判明。
18(木)●菅直人厚相がハンセン病患者代表と会談「癩予防法」を放置した行政の誤りを謝罪。
19(金)●住専七社などの不良資産総額が九兆五六二六億円、不動産融資の九割がこげつき、と判明。
20(土)●三重県嬉野町出土の土器に、四世紀前半、日本最古の文字が書かれていたことが判明。
21(日)●大相撲初場所千秋楽、優勝決定戦・同部屋対決で、貴ノ浪が貴乃花を破り初優勝。
22(月)●前年の粗鋼生産が四年ぶり一億㌧の大台回復。
23(火)●高校に「人材育成学科」が増加と文部省。
24(水)●東京都、新宿西口の路上生活者を排除。
25(木)●パチンコ、三〇兆円産業に。五年で倍と総務庁。
26(金)●香港返還に向け、北京に準備委員会が発足。
27(土)●仏、再開後六回目の核実験(29日、終了宣言)。
28(日)●全国社会人ラグビー大会準々決勝で、神戸製鋼がサントリーに敗れ、八連覇ならず。
29(月)●経営破綻の兵庫銀行の業務を引き継ぎ、みどり銀行が営業開始。
30(火)●前年の完全失業率は平均三・二%、初の二〇〇万人台で過去最悪と総務庁調査。
31(水)●自衛隊PKO先遣隊、ゴラン高原へ出発。

ニュース・ファイル 1996

フォト+日録で再現する366日

厚生省の資料隠し、大蔵・通産「たかり」の構造、自治体のでたらめな「食糧費」支出と、官僚の破廉恥ぶりが次々と明らかになり、国民をうんざりさせた。そんな中、大リーグの野茂英雄、テニスの伊達公子が大活躍。常識を破る大量の銅鐸出土もロマンをかきたてた。

◀**「寅さん」帰らぬ旅(8月4日)**映画「男はつらいよ」の主役・渥美清が肺癌で死去。68歳。写真は13日、松竹大船撮影所での「お別れする会」。山田洋次監督、女優・倍賞千恵子ら関係者、ファン2万人が別れをおしんだ。

共同通信社

共同通信社

▲**大和銀行、米国撤退(2月2日)**ニューヨーク支店の巨額損失事件にからみ、営業権を住友銀行に譲渡。組織ぐるみの損失隠しの悪評を残した。

▲**日本版シャトル、半分成功(2月12日)**新型ロケット「J1」が、極超音速飛行実験機「HYFLEX」を大気圏外分離。着水に成功し、回収には失敗したが、米・ロに続く技術水準を示した。

朝日新聞社

◀**アンコール・トム修復に日本の技術(2月)**東南アジア最大の石造遺跡群の崩壊を救うため、日本の遺跡救済調査団が本格的に作業開始。セメントなどの接着剤をいっさい使わない、石灯籠を積む伝統技術を活用した。

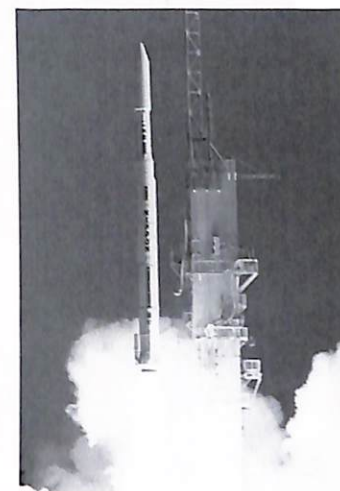
▼**サラエボで武装勢力が撤退(2月3日)**ボスニア・ヘルツェゴビナ和平協定の期限を迎え、セルビア兵とクロアチア兵中心の連邦軍側が引揚げ。兵力引き離しが、ようやく実現した。

共同通信社

▶**コンピュータ勝てず(2月17日)**IBMが開発に6年をかけた「ディープブルー」が、米国でチェスの王者・カスパロフ(写真、ロシア)に挑戦。1勝3敗2引き分けで敗れた。

ロイター/サンテレフォト

◀**鳥島のアホウドリ、雛が誕生(2月22日)**営巣地を火山灰質の急斜面から安全な場所に移した、環境庁の作戦が成功。国際保護鳥への、20年間の保護活動が実を結んだ。

読売新聞社

平成8年2月

1(木)●霊視商法事件で、明覚寺門主ら八人逮捕。
2(金)●東京地裁、松本サリン事件で初判決。オウム真理教・麻原教祖のサリン製造指示を認定。
3(土)●中国・雲南省でM七の地震。二四二人が死亡、民家四〇万戸以上が倒壊。
4(日)●中国のハルビンで、第三回冬季アジア大会。
5(月)●警視庁、前年秋に東京で起きた、史上最高額、一〇億円強奪事件の容疑者五人を逮捕。
6(火)●RV車のシェアが四年で倍増と判明。
7(水)●厚生省、共済年金と厚生年金の統合策を発表。
8(木)●米国、中国の核実験継続方針を非難。中国は「米国に説教する資格はない」と激しく反論。
9(金)●菅厚相が緊急記者会見、ないとされていたエイズ研究班資料を発見したと発表。
10(土)●北海道・豊浜トンネルで崩落事故、二〇人死亡。
11(日)●徳島大・昭和大のグループが、排卵誘発剤の副作用、多胎妊娠の防止に成功、と新聞に。
12(月)●中央競馬会で、初の女性騎手三人が誕生。
13(火)●ザイール軍が難民キャンプを閉鎖、ルワンダ難民一〇〇万人の強制的な送還作戦を開始。
14(水)●中国―ベトナム間国際列車、一七年ぶり再開。
15(木)●春闘要求、鉄鋼六五〇〇円、自動車一万二〇〇〇円。
16(金)●菅厚相、薬害エイズ問題で国の責任認め謝罪。
17(土)●インドネシア東部でM七・五の地震。家屋倒壊や津波で二〇〇人近くが死亡・行方不明。
18(日)●関東に大雪、横浜・甲府で二二センチ。
19(月)●日本に一三四つがいだけのイヌワシ営巣地の一割が破壊の危機と、日本自然保護協会調査。
20(火)●閣議、二〇〇カイリ排他的経済水域設定を了解。
21(水)●山梨厚生病院で酸素治療機が爆発、五人死傷。
22(木)●スーパーなどで、野菜・果物・菓子の量り売りが自動化されて復活している、と新聞に。
23(金)●日米首脳、沖縄県の基地整理・縮小で一致。
24(土)●写真家・楠本弘児、三三〇キロ離れた和歌山県の大雲取山から富士山を撮影、と新聞に。
25(日)●キューバ、反カストロ勢力を支援する米国民間組織の小型機をカリブ海で撃墜。
26(月)●宮城県、「食糧費」などで、相手の氏名などを含む公文書の全情報開示方針を決定。
27(火)●政府、震災復興宝籤で、一等賞金一億円認める。
28(水)●大和銀行が、巨額損失隠蔽事件で米司法当局と司法取引、罰金三億四〇〇〇万ドル。
29(木)●電気通信審議会、NTTの分離分割を答申。

共同通信社

日刊スポーツ

▲**マライア・キャリー、日本公演(3月7日)**米国の超人気歌手が、初の海外公演を東京ドームで開催。7オクターブを誇る歌唱力でヒット曲「ヒーロー」などを歌い、観客を魅了した。

▶**初の直接選挙で李登輝が圧勝(3月23日)**中国の軍事演習による圧力の中、台湾総統選挙が行われ、国民は現実路線をとる与党・国民党を選択した。

◀**ミドリ十字役員、土下座(3月14日)**HIV訴訟で和解案受け入れ。危険を承知で非加熱製剤を販売、血友病患者ら4000人に感染させた責任を認めた。

共同通信社

▶**狂牛病騒ぎ(3月25日)**英国で頻発する牛の伝染性海綿状脳症が人間にもうつるとされたため、欧州委員会は英国産牛肉を全面禁輸。写真は仏・カレーの税関。

朝日新聞社

▼**百武彗星、最接近(3月25日)**日本のアマチュア天文家が1月に発見。約1500万キロの近くまで接近し、肉眼でもよく見えて、世界的な話題となった。

時事通信社

日刊スポーツ

▲**「福永2世」、初騎乗初勝利(3月2日)**落馬事故で引退した天才騎手・福永洋一の長男・祐一(19)が中京競馬で華麗なデビュー。9年連続最多勝をあげた偉大な父の姿がダブった。

平成8年3月

1(金)●三〇年以上の対立を解き、ダイエーが松下電器製品の販売を開始。
2(土)●中教審、小・中・高への「総合科」導入提言まとめる。教科の枠越え、環境・情報など重視。
3(日)●エルサレムで路線バス爆破、一九人死亡。
4(月)●新進党、住専処理に税金を投入する予算案の成立阻止のため、国会内でピケ(〜25日)。
5(火)●二〇代前半の未婚女性が八五パーセントと『女性白書』。
6(水)●関東・甲信越で連続地震、河口湖で震度五。
7(木)●那覇地裁、女子小学生暴行事件で、米兵三人に懲役六年六ヵ月から七年の実刑判決。
8(金)●中国がミサイル発射含む軍事演習開始。台湾の総統選に圧力、米国は空母を派遣して牽制。
9(土)●全酪長岡工場の水増し牛乳販売が発覚。
10(日)●ペットから人間にうつる「人畜共通感染症」が増加している、と新聞に。
11(月)●観光バスの利用が急減している、と新聞に。修学旅行・職場旅行の様変わりが原因。
12(火)●名古屋市で、「ナゴヤドーム」が上棟式。
13(水)●クレジットカード保有者は頭打ちと日本信販。
14(木)●中国で、「ウィンドウズ95中国版」発売。
15(金)●オランダの名門航空機メーカー・フォッカー社が倒産、七七年の歴史に幕。
16(土)●ボクシング世界ヘビー級選手権、マイク・タイソンが復活し、六年ぶりに王座奪取。
17(日)●国連、世界の水不足が深刻で、放置すれば二〇一〇年までに戦争の危機も、と警告。
18(月)●二三都道府県が介護手当を支給中、と新聞に。
19(火)●ラムサール条約会議、佐渡の登録を承認。
20(水)●英、狂牛病が人間に感染する可能性を認める。
21(木)●公示地価、商業地はバブル初期の水準に下落。
22(金)●吉本興業、自社ブランドの菓子を販売と発表。
23(土)●台湾で初の総統直接選挙、李登輝が圧勝。
24(日)●サッカー日本代表、五輪出場決める。
25(月)●TBS、「坂本弁護士インタビュービデオ」をオウム関係者に見せた事実をようやく認める。
26(火)●労働省、人材派遣業の原則自由化を決める。
27(水)●大田沖縄県知事、高裁の代理署名命令を拒否。
28(木)●東京地裁、オウム真理教の破産を宣告。
29(金)●東京薬害エイズ訴訟で、和解成立。
30(土)●夏の午後だけ冷却を止めて節電する自販機が登場、電力会社も奨励金で応援、と新聞に。
31(日)●沖縄県の米軍楚辺通信所用地賃貸借契約が期限切れとなる(国による不法占拠状態に)。

共同通信社

▲**麻原彰晃(本名、松本智津夫)被告が初出廷(4月24日)**オウム真理教前代表が東京地裁へ。傍聴席は256倍の超高倍率。写真は東京拘置所を出る護送車。

共同通信社

▶**仮設住宅解体始まる(4月8日)**阪神・淡路大震災から1年3ヵ月。芦屋市立潮見中学校校庭の97戸がトップを切ったが、まだ4万世帯が取り残されていた。

◀**「ユナボマー」逮捕(4月4日)**連続小包爆弾で多数の死傷者を出した事件で、FBIは元大学助教授・カジンスキー(53)を拘引。現代社会に背を向け、モンタナ州の山小屋で暮らす孤独な男だった。

ロイター/サンテレフォト

読売新聞社

▲**期限切れ基地を国が「不法占拠」(4月1日)**前日で賃貸借契約が切れた沖縄の米軍楚辺通信所に、土地所有者と支援者が立ち入ろうとしたが、警備上の問題を盾に拒否。

読売新聞社

▶**世界遺産の「合掌造り」、化粧直し(4月14日)**前年12月に登録された白川郷の旧寺口家が、ボランティアの力を借り、トラック20台分のカヤで屋根の葺き替え。

読売新聞社

◀**兄弟3人、そろって五輪へ(4月7日)**アトランタ五輪の柔道代表選考会で、95キロ級の中村佳央(25)、65キロ級の行成(23)、71キロ級の兼三(22)が優勝(左から)。

平成8年4月

1(月)●ガソリンなど石油製品の輸入が自由化される。

2(火)●アイヌ民族の聖地が水没するとして問題になっている二風谷ダムで、試験湛水が始まる。

3(水)●田中角栄元首相の遺族が、七八億円の申告もれで修正申告していたことが判明。

4(木)●FBI、郵便小包爆弾事件「ユナボマー」逮捕。

5(金)●北朝鮮軍、板門店の共同警備区域へ侵入。

6(土)●農産物輸入額、五年連続で記録更新と判明。

7(日)●柔道の中村三兄弟、そろって五輪代表に決定。

8(月)●芦屋市で、「阪神・淡路大震災」の被災者用仮設住宅の解体が始まる。

9(火)●米連邦雇用機会均等委員会、セクハラを放置したとして、米国三菱自動車を提訴。

10(水)●韓国、元従軍慰安婦への政府補償などを求める国連人権委報告受け入れを日本に要求。

11(木)●アジアでは七%以上の経済成長が今後も継続すると、アジア開発銀行。

12(金)●マツダが事実上、フォードの支配下に。

13(土)●京都の国宝「飛雲閣」が大修理を終え、二五年ぶりに公開される。

14(日)●前年秋に、三島由紀夫の未発表作品などが発見されていた、と新聞に。

15(月)●東京都、乱脈経営の特別養護老人ホーム「松寿園」に二ヵ月間の業務停止命令。

16(火)●日本最古級・一万二〇〇〇年前の土器を確認したと、東京・新宿区教委が発表。

17(水)●災害などに備え、ヘリコプター用緊急着陸場を屋上に設置するビルが急増、と新聞に。

18(木)●カイロで、イスラム過激派が銃乱射、観光客ら一八人死亡。

19(金)●人間国宝に、落語の桂米朝ら決定。

20(土)●政府、難民救援用の備蓄基地設置を決める。

21(日)●郵政省が、携帯電話による医療機器の変調を確認、六割の高率で発生、と新聞に。

22(月)●横綱曙が日本に帰化。

23(火)●女性隔週刊誌「微笑」が六〇〇号で休刊。

24(水)●パレスチナ民族評議会、民族憲章のイスラエル破壊条項の削除を承認。

25(木)●フォード、史上最大の八七〇万台リコール。

26(金)●釧路空港で小型機が着陸に失敗、六人死亡。

27(土)●長野県で、取材ヘリが接触・墜落。六人死亡。

28(日)●テニスの伊達公子、世界一位のグラフを破る。

29(月)●韓国、竹島で港湾施設建設を開始。

30(火)●住宅着工、前年は四年ぶりに減少と建設省。

AFP/PANA通信社

▲**サッカーWカップ、日韓共催(5月31日)**国際サッカー連盟が、2002年(平成14)の開催について歴史的決定。開幕戦と3位決定戦は韓国で、決勝戦は日本で行うなどの大枠も決めた。写真は長沼健(左)と鄭夢準両国サッカー協会会長。

ロイター/サンテレフォト

▲**氷河からミイラ(5月21日)**米・ペルー合同調査隊が、ペルー南部のアンパト山で発見。インカ帝国時代の13歳前後の少女で、山の神への生け贄か。

証言・あの日この日

大岡　信(65)

8月23日(金)〈式典は真夜中すぎまで続いた。私の詩が俳優たちによって交互に朗読されたのち、数人の楽士が思い思いの場所に陣どり、コンサートとなった。グループの名は「綜合(シンヤシン)」といった。大統領夫妻、文化相夫妻らのほか、隣国モンテネグロの文化相(?)夫妻や、その他何人もの政治家たちが、みな夫人同伴で列席しているのが印象的だった〉(大岡信(まこと)「マケドニア日記」)

3月末のある日、マケドニアの旧友から興奮気味の電話がかかってきた。〈今年度のストゥルーガ詩祭金冠賞がおまえに決まった〉と言う。こうして、詩人・大岡信はマケドニア共和国へ旅だつ。そして、国をあげての盛大な授賞式と連日連夜の祝賀イベントに圧倒される。マケドニアはバルカン半島にあり、歴史は古いが、ユーゴ内戦を機に独立したばかりの新しい国である。(山崎行太郎)

読売新聞社

▶**最大級の肉食恐竜の化石(5月16日)**米・シカゴ大のセレノ博士(中央)グループが、モロッコ南東部のサハラ砂漠で発見。約9000万年前の白亜紀のものと推定。頭骨の長さが1.5メートルもあり、体長は14メートル近くあったとされる。

AP/WWP

ロイター　サンテレフォト

◀**南アフリカ、新憲法を採択(5月8日)**人種差別を正式に禁止。写真は拍手するマンデラ大統領(左)とデクラーク副大統領。しかし翌月、白人主体の国民党が政権離脱、前途多難を思わせた。

▲**青学大・井口忠仁、本塁打新記録(5月14日)**亜大戦で、法大・田淵を超える通算23号。この年、首都大学リーグ記録も破る「神宮32号」を達成。ドラフトの超目玉となり、ダイエーに入団した。

平成8年5月

1(水)●電算機用メモリは一六メガが主流に、と新聞に。

2(木)●米国南部で、進化論批判が激化、と新聞に。

3(金)●「地雷会議」、対人地雷禁止の議定書に調印。

4(土)●催眠商法の被害が急増、と警察庁。

5(日)●携帯電話で自動車事故が急増、と埼玉県警。

6(月)●北海道・網走で、キャンプ中の親子が一酸化炭素中毒死。テント内に七輪持ちこむ。

7(火)●東京地検、コスモ信組の乱脈融資事件で、泰道三八元理事長を背任容疑で逮捕。

8(水)●南ア制憲議会、人種差別禁止の新憲法を採択。

9(木)●前年のカラーテレビ、輸入が初めて国産を上回ったと判明。輸入は七八〇万台で三割増。

10(金)●香港のベトナム難民収容所で八〇〇〇人が強制送還に反対し暴動、自動車などに放火。

11(土)●七大陸の最高峰登頂に成功した登山家・難波康子さんが、エベレスト下山中に遭難死。

12(日)●代表的な水草の車軸藻が激減、と新聞に。

13(月)●川崎市人事委、職員採用の国籍条項を撤廃。

14(火)●NTT、使用済みテレホンカードを回収へ。ボランティア団体から買い上げ、善意生かす。

15(水)●日本の気温は一〇〇年で〇・五度上昇と気象庁。

16(木)●青森県の銘柄米「つがるおとめ」、米の輸出第一号として六月から香港へ。

17(金)●三菱電機、ビデオの国内生産中止を発表。

18(土)●イタリアで、戦後初の旧共産党中心左派政権。

19(日)●水俣病紛争終結で、被害者側訴訟取り下げへ。

20(月)●郵政省が、「クール小包」開始を決定。

21(火)●大手商社二社、パチンコ変造カードの被害は前年度決算で六三〇億円と公表。

22(水)●消費者金融各社が最高益、貸し倒れ率でも大手銀行を下回る、と新聞に。

23(木)●北朝鮮の大尉が、戦闘機で韓国に亡命。

24(金)●中国の自動車市場が急成長、と新聞に。

25(土)●米国で史上最悪の干ばつ、被害額二四億ドル。

26(日)●ミャンマーで、スー・チー女史率いる国民民主連盟が大会、対話と民主化を求める。

27(月)●科学技術庁など、原発から出る高レベル廃棄物処分に三兆円から五兆円と初めて試算。

28(火)●鹿児島県が、アマミノクロウサギ生息地を調査せずにゴルフ場開発を許可したことが判明。

29(水)●イスラエルで初の首相公選(31日、右派のネタニヤフが当選、中東和平に暗雲)。

30(木)●英・アンドルー王子が、セーラ妃と離婚。

31(金)●サッカーW杯の日韓共同開催が決定。

▲変造テレホンカード、横行(6月)東京の上野署が、不法滞在外国人などから半年間に100万枚も摘発。使用済みカードのパンチ穴を埋めるなどして改造。写真は、上野駅付近で変造カードを売る人。

読売新聞社

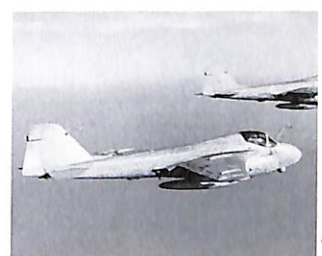
▲インドネシア機、炎上(6月13日)ガルーダ航空機が、福岡空港で離陸に失敗、滑走路を飛び出して炎上した。3人死亡、113人が重軽傷。パイロットの判断や、乗務員の避難誘導が問題になった。

共同通信社

▶「信念をもって行った」(6月6日)京都府の京北町立病院で、末期癌患者に筋弛緩剤を投与、死亡させた事件について、山中祥弘院長が記者会見。尊厳死・安楽死論議にまた火がついた。

共同通信社

▲三大テノール競演(6月29日)世界オペラ界の巨人、カレーラス、ドミンゴ、パバロッティ(写真左から)が東京・国立競技場で公演。最高の7万5000円の席も完売する超人気。写真は27日の会見。

日刊スポーツ

◀自衛艦が米機を撃墜(6月4日)環太平洋合同演習で防空戦闘訓練中、「ゆうぎり」の対空砲が、標的でなく標的を曳くA6E機を誤射。乗員は緊急脱出、無事だった。写真は同型機。

AP/WWP

▶米大リーグのリプケン、衣笠を抜く(6月14日)連続試合出場の記録を持つ鉄人・衣笠祥雄(右)の見守る中、オリオールズの6番・遊撃で出場、世界新となる2216を達成した。

ロイター/サンテレフォト

平成8年6月

1(土)●新食糧法施行、米の自由販売がスタート。
2(日)●自民党行革推進本部、都連の要望を入れ、首都機能移転「推進」を「検討」に変更。
3(月)●宮城県の「カラ出張」、五億円超と判明。
4(火)●東京圏のマンション価格は平均四三五三万円と『土地白書』。
5(水)●前年の牛肉の消費量が豚肉に迫ると総務庁。
6(木)●前年の海外での結婚式は五割増の約一万組と日本交通公社の『ウエディング白書』。
7(金)●パソコン販売が好調で景気引っぱる、シェア争い激化で値崩れの心配も、と新聞に。
8(土)●大阪府警、株主総会対策で暴力団などに現金を渡していたとして、高島屋幹部を逮捕。
9(日)●沖縄県議選。大田知事の与党が過半数確保。
10(月)●東京都、臨海副都心は規模を縮小して推進との基本方針を発表。
11(火)●日本航空が、国内九路線で五〇〇円の値下げ(各社追従し、値下げ合戦の様相)。
12(水)●米の連邦地裁、インターネット上での猥褻文書・画像の流布を禁じた通信法は違憲と判示。
13(木)●福岡空港でガルーダ航空機が炎上、三人死亡。
14(金)●松竹歌劇団(SKD)の解散が本決まり。
15(土)●東京で、母親が子ども二人を車内に残してパチンコに熱中、脱水症状で死亡させる。
16(日)●自治体に「きれいな公衆便所」ブームと新聞に。
17(月)●米中、海賊版対策で合意。中国が対策強化。
18(火)●住専処理法案が成立。
19(水)●サッカー・Jリーグ、京都が二一戦目で初勝利。
20(木)●東京地裁、都に食糧費全面公開を命令。
21(金)●名護市で女子中学生拉致事件(殺人事件に)。
22(土)●カラスが石を線路上において列車妨害していたことが判明。
23(日)●アラブ首脳会議、イスラエルに和平履行要求。
24(月)●東京で、初の「いじめ」対策国際シンポ。
25(火)●閣議、消費税率の五%への引き上げを了承。
26(水)●マンションの評価損は平均一三六〇万円。
27(木)●パバロッティら、「世界の三大テノール歌手」が来日。日本を皮切りに世界一周公演。
28(金)●日本原子力発電、初の商業用原発・東海原子力発電所の閉鎖を決定。
29(土)●六五歳以上の死亡者の「寝たきり」期間は、平均八・五ヵ月と、厚生省調査。
30(日)●厚生省、伝染病予防法改正方針決定。一〇〇年ぶりの改革で、感染症の水際阻止めざす。

「現場」を歩く

北本

高齢者保険を食いものにした「彩福祉グループ」の特養ホームが直面する悩み

山本徹美

▲「彩福祉グループ」が最初に建設した、「北本特別養護老人ホーム」。 但馬一憲

平成八年一一月一八日、警視庁は特別養護老人ホーム建設にからむ贈収賄罪の容疑で、茶谷滋(三九=前埼玉県高齢者福祉課長)と、「彩福祉グループ」の小山博史代表(五一)を逮捕。続いて同容疑で、厚生省の岡光序治前事務次官(五七)を逮捕した。

厚生、大蔵、自治の三大臣の合意により、「ゴールドプラン」こと高齢者保健福祉推進一〇ヵ年戦略がスタートしたのは平成元年だった。超高齢化社会を迎えるにあたって介護サービスの基盤整備をするための施策で、平成一一年末までに約一〇兆円もの予算が投じられる巨大プロジェクトである。

特養(特別養護老人)ホームは平成元年当時、全国で二一二五ヵ所、一五万二九八八床だった。計画ではこれを二四万床(平成六年、二九万床に修正)にふやす。当然、建設業の仕事がふえるわけだが、特養ホームの建設を受注できるのは社会福祉法人のみ。その許可と審査を行う所轄庁は都道府県。埼玉県では茶谷が全権を握っていた。茶谷は小山にゴールドプランをいかにして〝ビジネス〟にするか指南した、とされる。

小山の手口は業界で「丸投げ」と呼ばれるもの。厚生省の岡光や同省から出向中の茶谷との人脈の強みで工事を獲得すると、小山はみずから経営する建設会社に請け負わせ、さらに安い価格で下請けに発注。その利ざやは、総計約二七億円にものぼった。

施設は深刻な人材不足

「彩福祉グループ」が最初に建てた北本特養ホームを訪ねてみた。桑野英雄施設長が、当時と現況を説明してくれる。

「事件が発覚して心配したのは法人認可の取り消しでした。が、県がいちはやく施設の存続を表明したので、業務に集中できました。今もそうですが、職員は介護に追われ、事件どころではありません」

社会福祉法人には、三人以上の理事と監査役をおく規定がある。この事件の場合も、理事が異議を唱えていれば小山の建設会社が工事を独占することはできなかった。そこで小山は、理事に岡光の妻など〝身内〟を配置し、自分に有利な法人運営をはかっていた。所轄庁に対策を訊く。

「本庁一課長の判断で法人認可がなされないよう、審査委員会を新設、複数で審査にあたっています。工事内容に関しては契約手続基準を設け、原則として競争入札。一括下請け(丸投げ)の禁止を要請しています」(埼玉県高齢者福祉課)

ゴールドプラン策定の陣頭指揮にあたった岡光は、数ヵ月でこれを完成させたという。桑野施設長(前出)の意見。

「施設も必要ですが、介護はマンパワーなくして成り立たない。どこの施設も、深刻な人材不足に悩んでいます」

福祉は場あたりの計画で機能するほど単純ではない。北本特養ホームの帰途、私はつくづくそう感じた

▲この年12月4日、岡光序治前事務次官は6000万円などの収賄容疑で逮捕された。

共同通信社

ベストセラー

癌医療の〝常識〟に挑戦！『患者よ、がんと闘うな』

この年、時代の不安感を反映してか、医療に関する本がよく売れ、社会的な話題にもなった。中でも近藤誠の『患者よ、がんと闘うな』は、これまで常識とされていた癌治療法に根本から疑問を投げかける画期的な本で、癌患者やその家族にも多大な影響をもたらした。

著者は、放射線を専門とする慶応義塾大学医学部講師というバリバリの現役で、現場から得た実感と、学者として得た医学情報をまじえて、〝常識はずれ〟の理論を展開した。集団検診や早期発見の無意味さを説き、抗癌剤や外科手術のデメリットを指摘するなど、癌医療の〝常識〟に冷水をあびせかけた。反論に対しては、公開論争も辞さない構えを見せ、読者に大きな信頼感を与えた。

そして皮肉なことに、その癌で亡くなった大スター・石原裕次郎の兄である石原慎太郎が著した『弟』が、この年のベストセラーに名をつらねた。裕次郎がスターになっていく経過や、独立プロダクションを作ってからの活動ぶり、病を得てからの裕次郎自身とその周辺のことなどを、兄として、情のおもむくままに、しかも詳細に書き記しており、多方面から感動を呼んだ。

また、この年のベストセラーに『猿岩石日記』が入った。これは、人気テレビ番組「進め！　電波少年」の四月一三日の生放送中に初めて企画を知らされたお笑い二人組の「猿岩石」が、ヒッチハイクでユーラシア大陸を横断しイギリスへ向かう、その日々を記録したもの。まだ放送続行中の一〇月に刊行され、たちまちミリオンセラーになった。貧乏旅行であり、庶民レベルの裸のアジアが浮かび上がっているところが斬新だった。

●平成８年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	「脳内革命」（春山茂雄／サンマーク出版）
2位	「「超」勉強法」（野口悠紀雄／講談社）
3位	「神々の指紋（上・下）」（グラハム・ハンコック／翔泳社）
4位	「脳内革命（2）」（春山茂雄／サンマーク出版）
5位	「弟」（石原慎太郎／幻冬舎）
6位	「猿岩石日記 Part1」（猿岩石／日本テレビ放送網）
7位	「読め！」（浜田雅功／光文社）
8位	「金田一少年の事件簿（3）」（天樹征丸／講談社）
9位	「あのころ」（さくらももこ／集英社）
10位	「愛、無限」（大川隆法／幸福の科学経典部）

全国出版協会出版科学研究所

▲「患者よ、がんと闘うな」（1359円）

▲「弟」（1748円）

▲「猿岩石日記 Part1」（777円）

スターと名場面

中年男性に希望を与えた快作「Shall we ダンス？」の感動

周防正行監督の「Shall we ダンス？」が、この年のエンターテインメント界の話題をさらった。典型的な中年サラリーマンが、ふとしたきっかけから社交ダンスに取り組み、その真髄に迫ってしまうというストーリーだが、社交ダンスという一般にはなじみが薄い素材から、現代の新しい感動ドラマを作りだした。幅広い観客層に支持され多くの映画賞を受賞したが、外国にも輸出され好成績をおさめるなど、国際的な評価も高かった。

またこの年、従来にはなかった制作方法による映画「眠る男」が公開され、話題を呼んだ。これは、群馬県が人口二〇〇万人突破を記念して制作した映画で、同県出身の小栗康平が監督したもの。山から落ちて植物人間状態におちいった男とその周辺で展開されるドラマを、豊かな自然を背景に描き出した。県で働く外国人も視野におさめた傑作だった。

赤塚不二夫や藤子不二雄らが、駆け出しの頃住んでいたアパートが舞台の映画、「トキワ荘の青春」もこの年公開された。青春の熱気や挫折を描いた、まさに青春映画だった。

この年は、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「ユージュアル・サスペクツ」（スティーヴン・ボールドウィン）

大映提供

▲「Shall we ダンス？」のおもな出演者たち。左から役所広司、草刈民代、渡辺えり子、竹中直人。

群馬県企画部提供

▲「眠る男」では、山で転落した男（韓国映画のスター・安聖基）が無言の狂言まわしの役を演じた。

▶「トキワ荘の青春」は、時代に取り残されていく漫画家・寺田ヒロオ（左上＝本木雅弘）を語り手として展開。

カルチュア・パブリッシャーズ提供

モノ語り'96

爆発的ヒットは一〇代から！「エアマックス」「テトリスJr.」「トニータナカまゆげテンプレート」

◀電車の中でもゲームに夢中　この年、ＬＣＤ（液晶表示装置）を使った小型ゲームが、若者の間でブームになった。その発端となったのが〝テトリス〟のＬＣＤ版。テトリスのライセンスを取得したヒロが、9月に発売した「テトリスＪr.」は、年内だけで220万個（1個1000円）を超える売り上げを記録した。

▼プレミアもついたナイキ・ブーム　1987年に開発された、ナイキ・シューズの「エアマックス」が、この年、10代の若者を中心に爆発的に売れ始めた。ポリウレタン製のカプセルに特殊高圧ガスを注入したナイキ独自のクッショニング素材「エア」が、踵と前足部分に使用されており、毎年、新モデルが発売されるナイキの定番商品になっていたもの。価格は1万6000円だった。

▲▶コギャルたちが細い眉を描いた　この年ミューム　エ　テュームから発売された「トニータナカまゆげテンプレート」が、女子高生を中心にヒットした。眉の形にくり抜かれたテンプレートを自分の眉にあてて、なぞるだけで、理想の眉が描けるというもの。人気メイクアップアーチストの、トニータナカがプロデュース。3月に発売され、1年間で550万枚という驚異的な売れ行きを示した。専用ケースつき500円。

▶目に見えて毛穴の汚れが取れる　毛穴の黒ずみや汚れを落とす「ビオレ　毛穴すっきりパック」が、この年、花王から発売され、半年で1000万個が売れる大ヒット商品に。毛穴の汚れがたまりやすい小鼻用のパックで、鼻を水で濡らしてシートを貼り、10〜15分ほど乾かしてはがすだけで毛穴の汚れが取れるというもの。600円という手頃な価格も、大ヒットの要因となった。

◀健康志向がお菓子にも　この年2月にロッテから発売された「ＺＥＲＯ（ゼロ）」は、シュガーレス・チョコレートとして話題を集めた。ラクチトールという物質をまぜることで糖分ゼロのミルクを開発、ミルクチョコタイプのシュガーレス化を実現させたもの。カロリーも従来商品より低く、たちまちヒット商品となった。スティックタイプ7本入りで200円だった。

▼ストレスを忘れさせるお菓子　ミントの刺激で口内をすっきりさせる〝清涼菓子〟がこの年、大ブレイク。その火つけ役となったのは、カネボウフーズから発売された「フリスク」で、携帯しやすく、覚醒やエチケット作用があるということから、ＯＬやビジネスマンの人気が集まった。価格は200円。

▶パソコンなしでインターネット　この年の10月、インターネットがテレビで楽しめるインターネットテレビ「28Ｗ―ＭＭ1」が、三菱電機から発売された。インターネットにアクセスするのに必要なソフトを内蔵しているテレビで、付属のモデムに接続するだけで楽しめる手軽さが受けた。価格は27万円。

▶司馬遼太郎は、〝司馬史観〟による優れた歴史小説を発表する一方、精力的に旅を続け、「歴史を紀行する」「街道をゆく」などの紀行エッセーを書き続けた。写真は平成七年一〇月、名古屋市内で。　長谷忠彦　朝日新聞社

人物クローズアップ

司馬遼太郎（七二）

絶筆は連載「この国のかたち」日本の行く末を案じつつ急逝

平成八年二月一二日の午後八時五〇分、作家の司馬遼太郎が、動脈硬化による腹部大動脈瘤破裂のため死去した。七二歳だった。異変があったのは亡くなる二日前の一〇日午前零時すぎで、足元がふらつくと言ってソファーに横になり、みどり夫人がかかりつけの医師に電話を入れている最中に吐血した。救急車で大阪市内の病院に入院、九時間を超す手術を受けたが、意識は戻らず、そのまま息を引き取った。

絶筆になったのが雑誌「文藝春秋」に連載中の「この国のかたち」で、倒れる前日の九日、推敲に推敲を重ねながら「歴史のなかの海軍（五）」を書いていたという。

司馬遼太郎は、大正一二年八月七日、大阪市南区難波（現・浪速区）生まれ。本名は福田定一。大阪市立塩草尋常小学校から、昭和一一年、私立上宮中学校（現・上宮高校）に入学。そして一七年、大阪外国語学校（現・大阪外国語大学）蒙古語科に入学する。

昭和一八年九月、文科系学生の徴兵猶予が停止になり、司馬は仮卒業となって兵庫県加古川の戦車第一九連隊に入営した。翌年、満州（中国東北部）に渡り、帰還したのは二〇年五月だった。群馬県の相馬ケ原に駐屯、後に栃木県佐野に移動し、ここで終戦を迎えることになったが、その佐野で、終戦の直前にひとつの出来事が起きる。

それは、敵が上陸してきた時の、迎撃作戦に関するものだった。上陸してきたら、戦車部隊はこれを迎え撃つべく南下する。しかし、途中、部隊は東京方面から逃れてくる大勢の人たちと鉢合わせをする。その場合、交通整理をどのようにするか。それが司馬の、参謀本部の戦術家に対する質問だった。「轢き殺して行け」と言うのが戦術家の答えだった。軍隊の使命は国民の生命と財産を守ること。それを軍は「轢き殺せ」と言う。戦争の遂行がイデオロギーとなり、本来の使命が逆転する。司馬の受けた衝撃は大きく、これが司馬の文学の原点となった。

戦後、司馬は新聞記者としてスタートを切った。「新日本新聞」を経て、昭和二三年に産業経済新聞社（現・産経新聞社）に入社。二八年、大阪本社に移って文化部に所属した。小説を書き始めたのは三一年からで、旧知の作家・寺内大吉の勧めで懸賞小説に応募した「ペルシャの幻術師」が講談倶楽部賞を受賞。司馬遼太郎のペンネームがこの時から知られるようになった。

昭和三四年下半期の第四二回直木賞受賞作品となった「梟の城」は、前年から西本願寺系の日刊新聞「中外日報」に連載されたものである。作家として独立したのは三六年からで、作風も伝奇小説から本格歴史小説へと進み、三七年から「産経新聞」夕刊に連載された「竜馬がゆく」によって、〝司馬文学〟と呼ばれる独自のスタイルを確立。以降、『国盗り物語』『坂の上の雲』『翔ぶが如く』などの大作を次々と発表、かたわら「週刊朝日」に歴史紀行「街道をゆく」を連載し続けた。

平成三年に文化功労者に選ばれ、五年に文化勲章を受章。しかし、司馬の関心は日本国の行く末に注がれていった。

作家の関川夏央氏は、司馬遼太郎の根底にあったものをこう語る。

「たとえば、各省庁が省益というイデオロギーを身にまとうと、国民の利益という本来の目的が、省庁の利益に変わってしまいます。司馬さんはそうしたことをいちばんおそれており、あらゆるものはイデオロギー化してはいけないと言い続けていました。日本の行く末を憂えていたのも、日本の経済がイデオロギー化したからではないでしょうか」

◀昭和五四年、東大阪市下小阪へ引っ越した数日後、書庫で。

撮影・伊藤久美子

決定的瞬間

北海道・豊浜トンネル崩落！四回の爆破作業もむなしく生き埋めの二〇人が犠牲に

◀2月14日、4回目の爆破が行われた。轟音とともに巨岩の大半が崩れて、一部が海に落ち、さっそく救出活動が開始された。

二月一〇日午前八時一五分頃、北海道余市町と古平町の境にある国道二二九号線豊浜トンネル（一〇八六メートル）内で、約四〇メートルにわたって落盤事故が発生した。

事故直後、現場を車で通りかかった古平町の会社員・野沢浩正さん（二五）は、フロントガラスが割れた軽乗用車の中でうずくまっている平野まなみさん（一九）を発見した。

平野さんは、事故の直前、余市側からトンネルに入った。古平側出口から五〇メートルほど手前までやって来た時、地響きとともに前方のトンネルの内壁がバラバラと落ちてきて、コンクリートの塊がフロントガラスを突き破った。思わず急ブレーキを踏んだ平野さんの車は凍結した路面でスリップ。これが、結果的にトンネルからの脱出につながったのである。

平野さんは「後、数秒早く前に走っていたら、大きな岩盤が車を直撃していたと思います」と言葉をつまらせた。

落盤が起きた場所は古平町から四一メートル入ったところ。トンネルの外壁がむき出しになった「巻きだし」と呼ばれる部分だ。崩れた岩盤の規模は高さ六〇メートル、幅四〇メートル、厚さ一〇メートルで、量は約二万立方メートル、約五万トンにのぼっていた。そして、巨大な岩盤が厚さ八〇センチの鉄筋コンクリートのトンネル内に突き刺さった形で崩落していた。余市署の調べにより、積丹町余別発小樽行き北海道中央バスの路線バスの運転手、通学途中の中高校生七人や、札幌の雪祭りに出かける途中の母子連れなどを含む乗客一九人、さらに乗用車の一人の計二〇人が生き埋めになっていることが判明した。

余市、古平の両側出口に、重機をともなって警察官、消防・レスキュー隊員、役場職員、さらに自衛隊員が続々と到着。

救助隊は、さっそくパワーショベルによる土砂の取りのぞき作業を開始したが、土砂を取りのぞくたびに新たな崩壊が起きた。岩盤がゆるんでおり、二次災害の危険性が高いことも明らかになった。そこで、レスキュー隊などが手作業で掘り進むことになった。

結局、トンネルに突き刺さった巨大な岩盤を爆破することが決定される。生き埋めになっている人たちの家族らは、爆破の方が救出の可能性が高いとする対策本部の説得に、苦渋のうちに同意した。

同日午後四時二十五分、発破のスイッチが入った。「ズーン」という低く重い爆発音とともに、岩盤の下部が盛り上がり、次の瞬間、砂塵が海に向かってほとばしるように散った。やがて、巨大な岩盤に亀裂が走り、両側が薄くはがれ落ちた。しかし、そこまでだった。生存者を守るために、火薬量をおさえたことが裏目に出たのだ。

二回目の爆破が行われることになった。一二日の夕刻に実施された爆破もまた、岩盤の下部が崩れ落ちただけで、失敗だった。そして、一三日午後零時三〇分、三回目の爆破を行った。「駄目だ……」。家族の口から小さな悲鳴がもれる。

一四日午前一一時、四回目の爆破が行われた。大きな岩盤は、やっと上部が数個の塊となって海側に崩れ落ちた。午前一一時二〇分、パワーショベル二台が、土砂をかきおろし始めた。

発生から八日目の一七日午前、「中央バス」の文字がくっきりと見えるところまで土砂の取りのぞき作業は進んだ。しかし、最後の最後までコンクリート塊が邪魔をする。ようやく、同日午後九時二分に、救出作業は完了した。

だが、凍えながら連日現場で救出作業を見守っていた家族の望みもむなしく、二〇人は帰らぬ人となっていた。

事故の予兆はあったのだろうか。

トンネルの東約三キロにあるワッカケ岬では、平成六年に岩盤が海中に崩れ落ちている。崩落した岩盤の量は、豊浜トンネル事故を上回った。この事故後、危険性が予測できたにもかかわらず、管理者である国はこれを放置したとする遺族側と、予知・予測は困難だったとする国側の主張が対立し、一部の遺族は札幌地裁に提訴した。

崩落の危険性が高い岩盤や斜面は風光明媚な沿岸部に多い。北海道に限らず、こうした地形や断崖に穿たれたトンネルは日本国中にある。平成一〇年六月に遺族側と国の示談による和解が成立したが、日本の道路やトンネルは本当に安全なのか、詳細な調査と対応を求める声が高まったことはいうまでもない。

時事通信社

▲爆破作業を見守る、生き埋めになった人々の家族。

時事通信社

共同通信社

▲豊浜トンネルの落盤事故で、崩落した巨岩につぶされた路線バス。

美の出会い

「出雲王国」の謎を秘めて島根県加茂岩倉遺跡から三九個もの銅鐸が出土!

◀加茂岩倉の、農道工事現場の斜面に取り出された銅鐸。発見された時は、大きい銅鐸と小さい銅鐸が、入れ子の状態になっていた。

平成八年一〇月一四日の朝、島根県大原郡加茂町大字岩倉字南ケ廻の農道工事現場で作業をしていた小田竜蔵さん(五七)は、土砂の中に緑色をしたポリバケツのようなものを目にしたが、気にもとめず作業を始めた。一〇時頃、パワーショベルですくい上げた土の中に、またポリバケツのようなものがあった。

昭和六〇年に同じく島根県の神庭荒神谷遺跡から出土した銅鐸の写真を新聞で見ていた小田さんは、「ひょっとすると銅鐸ではないか」と思い、すぐさま工事を中止して、工事会社に電話を入れた。社長からさっそく加茂町役場の農林課に連絡が入り、すぐさま教育委員会にまわされた。「大変なものが出た」という知らせを受けた教育委員会の吾郷和宏さんは、すぐさま現場に急行。水田の畦に並べられた一〇個近い銅鐸と、さらに山の斜面に二〇個以上の銅鐸が取り出されているのを目にした。その時の様子を、吾郷さんは次のように語る。

「銅鐸は博物館のショーケースでしか見たことはなく、最多出土ということも知りませんでした。ただ土が付着したなまなましい銅鐸と、そのおびただしい数に鳥肌が立つほど驚き、興奮しました。さっそく、工事関係者に現状を動かさないようにお願いし、県の教育委員会の文化財課など関係機関に連絡をとりました。銅鐸は全体に薄い作りで、厚さが二ミリほどのものもありました。現代の鋳物師の技術をもってしても追いつかないほどの、高度な技術がうかがえます。文様は、写実的な蜻蛉や鹿のほかに、銅鐸では初めて見られる海亀が描かれたものもあり、鈕には人間の顔が描かれているのもありました」

この知らせは住民や新聞社にいち早く伝わり、準備も整わないその日のうちに緊急記者発表となり、全国ニュースとして伝えられた。たとえば翌一五日の「朝日新聞」では「銅鐸ずらり三九個」「史上最多の出土」「神話の国・出雲に政権あった?」などの字句が躍った。以後、加茂岩倉遺跡は、古代出雲の実像を求める学者や研究者、歴史マニアの間で、大フィーバーを巻き起こしていく。

加茂岩倉遺跡から出土した銅鐸の総数は、最終的には三九個にのぼった。小田さんの工事中止判断のおかげで、一部、埋まっていた状態のわかる銅鐸も見つかり、貴重な資料となった。

弥生時代に作られた銅鐸は、何の目的で作られたのか、なぜ埋められたのか、なぜ弥生時代だけで姿を消したのか、いずれも謎に包まれたままである。とりあえず現在のところは、祭りに使われたと考えるのが一般的である。鈕と呼ばれる吊り手の穴に、ひもを通して吊り下げ、内側に舌と呼ばれる棒を下げて、揺らして鳴らしたのだろう。やがて装飾的になり、〝鳴らすための祭器〟から〝見るための祭器〟に変わっていったのではないかと考えられている。

これまで、銅鐸は近畿地方に始まり、やがて各地に広まっていったものと考えられていたが、加茂岩倉遺跡の三九個を含め、出雲地方からは五一個が出土し、全国一となった。かつて〝銅鐸文化圏〟の代表とされていた阿波、紀伊、近江、摂津でも三〇から四十数個の出土である。全国で約四七〇個出土したうちの一割以上が、出雲からとなった。このことは、何を意味しているのだろう?

昭和五九年に銅剣三五八本、昭和六〇年に銅鐸六個、銅矛一六本が出土し、歴史家や考古学者のど肝を抜いた神庭荒神谷遺跡は、加茂岩倉遺跡の北西三キロほどの地点にある。これまで弥生時代以降の日本古代史は、大和政権を中心に語られることが多く、出雲は北九州の吉野ケ里遺跡や奈良の唐古遺跡のような巨大集落の遺跡が発見されていないということもあって、過小に評価されてきた。

ところが、神庭荒神谷、加茂岩倉と続く大量の青銅器発見により、現在、出雲王国の存在まで想定する歴史の見直しが始まっている。また、島根県は銅の有数の産出地だったことから、どこの銅が使われたのか、出雲で製作されたのかどうかなど、今後の研究課題も山積している。

なお、現場は、平成八年度、九年度の国の補助事業としての調査を終え、現在は埋め戻されている。

▲加茂岩倉遺跡出土「23号銅鐸」。高さ49センチ、重さ5.84キロ。右上に鹿、その下に不明の四足獣が描かれている。

朝日新聞社

島根県教育委員会提供

20世紀博物館

ワッハ上方 大阪府立上方演芸資料館 大阪市

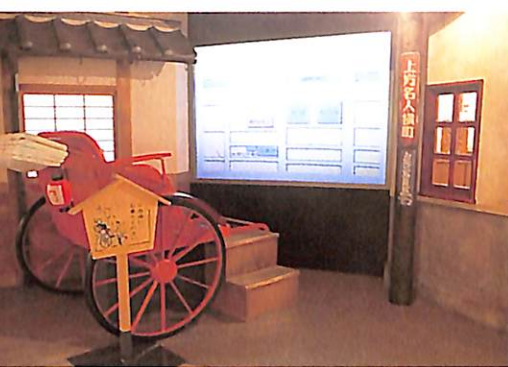
初代春団治、エンタツ・アチャコ、西条凡児……音声と画像で至芸を満喫する

桑原茂夫

▶上方演芸の「殿堂」コーナー。殿堂入りした芸人の略歴はもとより、似顔絵やマリオネットなどが展示されている。

このミュージアムには、上方演芸がぎっしり詰まっている。明治時代からの主として寄席の芸が、さまざまな工夫を通して九〇〇平方メートルたらずのフロアに蘇ってきて、来館者ににぎやかに語りかけてくる。

係の瀬川浩臣さんによると、上方（に限らないが）演芸は大きく三回のエポックを経てきている。レコードの出現とラジオの普及、それにテレビの普及である。これらのメディアは、寄席をぐんと身近なものにした。

レコードにしてもラジオにしても、かつては寄席を茶の間に運びこむメディアとして機能したが、それにともなって開発された録音技術が、時を経て「芸の復元」という奇跡を現実のものとした。そのことが、最初の展示室で実感させられる。今はなき吾妻ひな子の「女放談」や中田ダイマル・ラケットの「僕は幽霊」といった話芸のサワリを聞くことができるのである。さすが名を残した芸人だけあって、ほんのわずか聞くだけでも、一気に引きつけられるものがある。

▲初代・春団治が寄席まわりをしたという、伝説の赤い人力車を再現したコーナー。これに乗ると、目の前のスクリーンに当時の風景を再現したアニメが映し出される。

テレビ録画された芸でも同じことで、西条凡児の「おやじバンザイ」や六代目笑福亭松鶴の話芸は大いに刺激的だ。

サワリだけでなくじっくり見聞きしたい時は、同じフロアにあるライブラリーに行けばいい。ブースを借りて、好みの演目や番組を、たっぷり楽しむことができるのである。

このライブラリーはすごい。上方演芸の保存と継承のために、各方面が著作権などのバリアを解いて、類を見ない貴重な音声と画像のライブラリーにした。

かくしてエンタツ・アチャコや桂米朝、桂枝雀、ミヤコ蝶々、横山やすしはもとより、初代桂春団治や二代目旭堂南陵、砂川捨丸・中村春代などの、もはや歴史的と言っていい価値を持つ至芸を、見聞きすることができる。

さらにこのミュージアムには、演芸のライブ空間もある。小さな「レッスンルーム」や、三〇七席を持つ本格的な「演芸ホール」がそれで、若い芸人たちは、まずレッスンルームで芸を学び、次に演芸ホールで大勢の客を前に芸を磨き、やがて一人前の芸人になっていくというわけだ。前出の瀬川さんによると、ここには「ゆりかごから墓場まで」用意されていることになる。レッスンルームが芸人としてのゆりかごで、墓場とは、このミュージアムにその芸が残されることを意味している。

▲レコードのレーベルも並ぶ、レコードとラジオの演芸コーナー。タッチパネルで聞きたい演目を選ぶ。じっくり聞きたい時は、ライブラリーへ。

その伝で言うと、展示室の一角を占める「殿堂ギャラリー」はさしずめ最高級の墓場だ。これまでに初代春団治、五代目松鶴らが殿堂入りして、名人の呼称を確固たるものにしてきた。

ところでこのミュージアムは、昔からたくさんの劇場が立ち並ぶ繁華街にある周辺地域と一体となって、上方演芸のすべてを味わわせてくれるのであった。

◀この付近にある法善寺横町の居酒屋の雰囲気の中で、懐かしいテレビ演芸を楽しむこともできる。

●ワッハ上方 大阪府立上方演芸資料館
大阪府大阪市中央区難波千日前一二—七
☎〇六—六三一—〇八八四
南海電鉄難波駅下車、徒歩三分
開館時間＝一一時〜一九時
休館日＝水曜日
入館料＝一般八〇〇円

カイワレダイコンは本当に感染源だったのか？ 全国では9451人が発症、12人が死亡 堺市を直撃した「O157」の恐怖！

▲集団感染に見舞われた堺市では、7月12日からどこの医療機関もパニック状態になった。写真は、児童や付き添いの母親らで混雑する7月14日の市立堺病院。 読売新聞社

平成八年春、「病原性大腸菌O157」の猛威が全国で荒れ狂った。激しい腹痛と下痢、そして血便……。とりわけ大阪府堺市の集団大感染は、世界でも類例がない規模で、大阪府だけで六二一八人が発症、一〇〇〇人が入院する異常事態となった。そして今も、「O157」による災禍は全国で発生し続けているのだ。

激しい腹痛に下痢……堺の医療機関、パニック

「小学校二年だった私の息子も『O157』にやられました。最初は食欲がなくゴロゴロしていただけだったので、たんなる夏風邪かと思っていたのですが……三日すると激しい下痢に襲われたのです。どうも変だと思い、私のつとめる病院に息子を連れて行くと、そこにはすでに…〇人ほどの子どもたちが駆けこんでいました。彼らには点滴治療を行いましたが、重症の子は一晩中、ポータブルトイレに座ったまま、血便を流していました」

こう語るのは、堺市にある耳原総合病院の小児科医・小松孝光氏（現・四二歳）である。

平成八年七月一二日の夜から一三日の朝にかけて、堺市内はパニックにおちいった。子どもたちが激しい下痢や発熱、血便の症状を訴え、市内の医療機関に殺到したからだ。その後、市内で出動した救急車は延べ一〇〇回にもおよび、サイレンは鳴りやまなかった。

市立堺病院では、夜間救急診療で小学生の患者一〇人が診察を受けた。

「普通、血便というのは、便に血がまじ

▲7月30日、堺市立槇塚台小

学校の調理室で消毒作業をする堺市の職員。堺市では、最終的に患者は5727人（児童5499人、学校職員92人、二次感染者など136人）に達した。 共同通信社

る状態ですが、あの時は違っていました。血だけがドローッと流れている感じですよ。食中毒であることは見当がついたが、最初は、原因が何かわからなかった。『O157』については知識としては知っていても、症状は診たこともなかったし、ただびっくりするだけだった。治療法のマニュアルもなく、大変でしたよ」

大阪大学名誉教授で、市立堺病院院長・木谷照夫氏の回想談だ。

ピークは、七月一三日夜から一四日にかけてであった。土曜、日曜と重なったため、休日診療所だけでは対応できない。市の環境保健局は、休診中の病院にも診察を要請、医療機関の確保に全力を傾けた。しかし、堺市内だけでは入院ベッドが不足し、大阪市など近隣の自治体の病院にも協力を求めることとなった。

堺病院では一二日から一五日までの間に四〇四人が診察を受け、四一人が入院したが、患者の数があまりにも多いため、待合室や廊下に長椅子を並べて寝かせ、点滴を打つという事態に追いこまれた。

七月一五日午後、堺市学童集団下痢症対策本部は、食中毒症状を訴えた児童は三七九一人、入院者数も延べ一〇一人にのぼったことを発表した。WHO（世界保健機関）は七月二〇日に、世界各地での食中毒の発生状況をまとめ、「日本での被害は突発的な集団感染としては、桁違いの記録的患者数」と結論づけ、一時期にこれだけ大規模な流行例は前例がないことが明らかになった。

原因の究明は、なかなか進まなかった。厚生省が、感染源は学校給食で共通の食材だったカイワレダイコンの可能性が高い、との中間報告を行ったのは八月七↖

日である。しかし、その後の調査によっても、カイワレダイコンからは菌の発見にはいたっていないのが実情だ。

その後、堺市での猛威は八月には下火になったものの、平成八年における大阪府内での発症者数は六二一八人、入院者数一〇〇〇人、死亡者四人という異例な事態となったのである。

いたるところで発生する「O157」禍への対応策

「O157」が初めて発見されたのは昭和五七年、アメリカでのハンバーガーによる食中毒事件がきっかけだった。

それはほかの大腸菌とは異なり、腸内で毒素（ベロ毒素）を出す悪玉の大腸菌で、そのベロ毒素は、下痢や下血を引き起こし、赤血球の破壊や血小板（けっしょうばん）の減少をもたらす溶血性尿毒症症候群を併発させて死にいたらしめることもある。

日本でその存在が広く知れわたったのは、平成二年、埼玉県浦和市のしらさぎ幼稚園での集団感染事件だった。一〇月一〇日の運動会以後、園児やその家族らの中に下痢症状を起こす人が多発、そのうち、四歳と六歳の園児が死亡したのだ。埼玉県の調べで、感染源は幼稚園で使っていた井戸水と判明した。浄化槽汚水タンクの亀裂からしみ出した汚水によって、井戸水が汚染されていたのである。

その後も「O157」の被害は日本各地で続いた。平成六年には奈良県の小学校で一九四人が感染、七年には札幌で、八歳の男児が溶血性尿毒症症候群で死亡、被害はほぼ全国におよんでいた。

そして、平成八年五月に入ると、岡山県邑久（おく）郡邑久町の小学校と幼稚園で集団中毒が発生、約三〇〇人が感染して六歳の女児が死亡、六月には、岐阜、愛知、福岡、岡山で患者が続出する異常事態となった。例年五月に患者が出始め、夏場にピークを迎えることが多かったため、春の段階での患者の多さから、その年にはかなりの大流行が起こることが専門家の間で懸念されていた矢先のことであった。

結局、平成八年の「O157」による全国の被害は、発症者数九四五一人、入院者数一八〇八人、死亡者一二人にもおよんだのである。

それはおもに、「O157」を含んだ食材が一度に多数の児童の口に入る学校給食によってもたらされた災禍だった。しかし現在、流通の発達、テイクアウトやファミリーレストランなどの普及で、同じ食材を不特定多数の人々が食べる機会もふえている。我々は、今後も「O157」禍に見舞われる危険の中で生活していると言えるだろう。

厚生省の生活衛生局食品保健課の課員は、次のように語っている。

「現在、全国の社会福祉施設の食事や学校給食の一斉点検、市場などでの食材の汚染実態調査を定期的に実施し、監視体制を強めています」

そして先の木谷氏は、こう忠告する。

「『O157』は動植物を問わず、いたるところに発生します。給食などによる集団中毒は、調理法などの改善で少なくなると思いますが、我々はいつ『O157』に感染するかわかりません。食材はできるだけ加熱処理すること、まな板は食材ごとに洗いなおすといった注意をおこたってはいけません」

事実、「O157」による被害は後を絶っていない。厚生省のまとめによれば、平成九年に「O157」の症状を訴えた人は実に一五七六人、三人が死亡しているのである。

◀堺市では2学期になっても学校給食を再開できず、児童たちは弁当持参となった。写真は市内のデパートで弁当箱を買う親子連れ。 共同通信社

▲感染源の可能性があるとされたカイワレダイコンの廃棄作業。福岡県岡垣町で。 朝日新聞社

7~8月

フォト＋日録で再現する366日

朝日新聞社

▲**タンクローリー炎上（7月17日）**早朝、首都高速の代々木付近を走行中に横転、積み荷のガソリンがもれ、引火した。運転手は明治神宮で首吊り自殺していた。

共同通信社

▶**ヤワラちゃん、無念の銀（7月26日）**アトランタ五輪、女子柔道48キロ級決勝で、田村亮子（20）が無名の北朝鮮選手、ケー・スンヒ（16）を攻めあぐねて敗退。

▼**アトランタ五輪で爆弾テロ（7月27日）**ロックコンサート開催中の記念公園で、パイプ爆弾が爆発。二人死亡、110人が負傷。警備員を犯人とした「冤罪報道」が問題になった。

▶**日本、ブラジルに勝つ（7月21日）**アトランタ五輪のサッカー1次リーグで、優勝候補にまさかの大金星。GK川口（右）の好守が光った。W杯出場の期待を抱かせた。

共同通信社

朝日新聞社

▲**北朝鮮の食糧危機、深刻（7月）**前年に続く豪雨禍で、全農地の2割が冠水、数十万人が飢餓線上となった。写真は首都・平壌郊外で、国際赤十字から小麦粉の配給を受ける市民。日本は300万ドル分の穀物援助を決めた。

共同通信社

◀**「鉄の街」の最後のシンボル消える（7月3日）**岩手県の新日鉄釜石製鉄所第1高炉が、老朽化が進んで危険になったため、解体。平成元年3月に操業が停止された後も、近代製鉄発祥を記念する建物として残されていた。

ALL SPORT／AFLO PHOTO

平成8年7月

1（月）●六月のビール販売実績で、アサヒスーパードライが四二年間トップのキリンラガーを抜く。
2（火）●埼玉医大倫理委、性転換手術を正当な医療と認める日本初の答申。
3（水）●新日鉄釜石製鉄所で第一高炉の解体が始まる。
4（木）●国語審議会、ワープロ用漢字基準作成に着手。
5（金）●政府、高齢社会対策要綱を閣議決定。六五歳までの継続雇用推進を明記。
6（土）●日本版スペースシャトルの小型実験機が、オーストラリアで、初めて自動着陸に成功。
7（日）●和歌山県立医大病院で、何者かがポットに覚醒剤を混入し、乳児が中毒。
8（月）●国際司法裁判所、核兵器は国際法違反と判断。
9（火）●東京の慶大病院で、新生児がレジオネラ菌に院内感染、一人が死亡していたことが判明。
10（水）●スチール缶のリサイクル率は七四％と判明。
11（木）●公安調査庁、オウム真理教の解散を請求。
12（金）●映倫、映画「愛のめぐりあい」で、ヘア修整勧告を撤回、ヘア描写を大幅に緩和。
13（土）●大阪府堺市の小学校で、「O一五七」による集団食中毒。最初の大規模発生が始まる。
14（日）●トヨタ生協、海外勤務者のための「墓参り代行サービス」を開始、と新聞に。
15（月）●仮設住宅での孤独死が八三人と、兵庫県警。
16（火）●文部省、「いじめ」対策最終報告書。欠席を容認。
17（水）●東京・新宿駅西口に、動く歩道が完成。
18（木）●東京都奥多摩町の町長選で、特養ホーム職員が三十数人分の不正な不在者投票、三人逮捕。
19（金）●アトランタ五輪、開幕。
20（土）●「O一五七」、日本では記録的感染とWHO。
21（日）●プロ野球・オールスター戦で、イチローが登板。セリーグの野村監督は投手を代打に起用。
22（月）●トヨタが、ニッケル水素電池利用の電気自動車を販売へ。一回の充電で二一五キロ走行。
23（火）●TOTO、光触媒を開発と発表。汚れないタイル、曇らない眼鏡などへの応用期待。
24（水）●スリランカで爆弾テロ、七〇人以上が死亡。
25（木）●輸入米四〇万トン中八割が売れ残り、と新聞に。
26（金）●「住宅金融債権管理機構」が正式発足。
27（土）●アトランタの五輪公園で爆弾テロ、二人死亡。
28（日）●香港の路線バスに初の冷房車、料金は二倍。
29（月）●来春の企業採用計画、大幅増と判明。
30（火）●安保理、レバノンでのPKO活動延長を決定。
31（水）●中国系の香港ドラゴン航空が、台湾便を開設。

共同通信社

▲**「朝鮮総督府」解体（8月20日）**ソウルにあった「日帝時代の象徴」が、70年ぶりに姿を消した。国立中央博物館として使われていたが、金泳三大統領の「歴史清算」政策が貫徹された。

◀**巻原発、住民投票（8月4日）**原子力発電所建設をめぐり、新潟県巻町が全国初の試み。9割近い町民が投票し、6割が「ノー」。国の重要政策に、住民がストップをかけることになった。

共同通信社

読売新聞社

▲**大型台風、九州を襲う（8月14日）**熊本市付近に上陸、九州全域を暴風雨圏で包み、お盆休みの交通網はほぼ全滅となった。写真は北九州市門司区で、防波堤を越えアパートに打ち寄せる高波。

▶**一人でメダル5個（8月24日）**米・アトランタのパラリンピックで、水泳の成田真由美（25）が、100メートル自由形などで金2、銀2、銅1。脊髄炎による下半身麻痺を克服しての快挙だった。

▶**フィリピン元従軍慰安婦に償い（8月14日）**国家補償を求める国連や反対派を無視、3人に橋本首相の「おわびの手紙」と、「アジア女性基金」からの一時金200万円を支給。

時事通信社

▶**「みらい」進水（8月21日）**反対運動で廃船となった、旧原子力船「むつ」が変身。8600トンの大型海洋観測研究船として、石川島播磨重工業東京第一工場で進水した。撤去した原子炉は、青森県むつ市が保管・展示。

読売新聞社

平成8年8月

1（木）●紫外線が一〇年間で一〇％増と米航空宇宙局。
2（金）●単身赴任、五年間で六割増と労働省調査。
3（土）●青森県のパチンコ店が、「子連れ入場お断り」。
4（日）●新潟県巻町で、原発建設めぐり初の住民投票。
5（月）●堀江謙一、太陽電池を動力とするアルミ缶リサイクルボートで太平洋横断。
6（火）●米航空宇宙局、火星からの隕石に原始的な生命の存在の可能性を示す物質を発見と発表。
7（水）●不登校が過去最多の八万二〇〇〇人と文部省。
8（木）●四日死亡した渥美清さんに、国民栄誉賞。
9（金）●宮城県、「官官接待」で、過去五年分の食糧費支出に関する公文書を全面公開と決定。
10（土）●三洋電機米現地法人の金野衛社長が、メキシコで誘拐される（19日、解放）。
11（日）●東北地方で連続地震、宮城県で震度五が三回。
12（月）●「ピンクちらし」撃退ステッカーを配布する自治体が増加している、と新聞に。
13（火）●中国・新疆ウイグル自治区で、炭田の自然発火が続出、消すのに一〇〇年と北京発。
14（水）●ウィーンフィルが女性演奏者に門戸と新聞に。
15（木）●米国・アトランタでパラリンピック開幕。
16（金）●シカゴの動物園で、ゴリラが囲いに転落した男児を救出し話題に。
17（土）●女子高生の三分の一がテレクラ経験と総務庁。
18（日）●政府の温暖化対策「新・地球再生計画」方針が決まる。二酸化炭素の深海固定処分など。
19（月）●防衛庁長官、沖縄米軍の射撃訓練本土移転問題で、関係自治体への協力要請を開始。
20（火）●韓国で、旧朝鮮総督府の解体・撤去が始まる。
21（水）●国際陸連、世界新記録に一〇万ドル支給を決定。
22（木）●ロシアとチェチェン独立派が停戦協定。
23（金）●クリントン米大統領、タバコを中毒性の薬物に指定、広告を厳しく規制。
24（土）●首相、「林野」の民営化検討を自民党に指示。
25（日）●組合健保、平成七年度は一二八〇億円の赤字。
26（月）●ソウル地裁、粛軍・光州事件で、全斗煥元大統領に死刑、盧泰愚前大統領に懲役刑（後、減刑）。
27（火）●厚相、堺市の「O一五七」は沈静化と報告。
28（水）●英皇太子とダイアナ妃の離婚が確定。
29（木）●東京地検、薬害エイズ問題で、安部英前帝京大学副学長らを業務上過失致死の疑いで逮捕。
30（金）●「朝日新聞」、北朝鮮の水害状況をルポ。前年の二〇〇万トン減収を超える災害に。
31（土）●住専七社が解散、債権を「管理機構」に譲渡。

▶野茂英雄、ノーヒットノーラン（9月17日）ドジャース入団以来、旋風を巻き起こす「トルネード」が、対ロッキーズ戦で快投。大リーガーのど肝を抜いた。

共同通信社

▲三池炭鉱のシンボル解体（9月5日）揚炭や入坑に使用されたやぐらで、高さ46メートル。大正時代に建設、東洋一を誇った。同炭鉱は翌年閉山する。

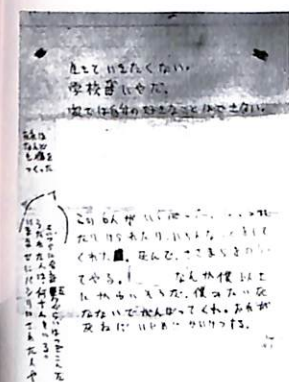
読売新聞社

◀阪神高速神戸線やっと復旧（9月30日）阪神・淡路大震災で倒壊するなど寸断していたが、622日ぶりに開通。名神高速とも西宮インターで接続した。

共同通信社

▶米軍基地めぐり、沖縄で県民投票（9月8日）基地の整理・縮小と、日米地位協定見直しにつき賛否。6割が投票、9割が賛成した。写真は11日、結果を駐日米臨時代理大使に渡した大田知事。

共同通信社

▶北朝鮮、韓国侵入（9月18日）北東部海岸で潜水艦（写真）が座礁、乗員11人が自決、一人が逮捕され、14人が逃走。韓国は武装スパイと断定。両国関係は険悪化したが、12月に北側が謝罪、収束した。

共同通信社

共同通信社

▲「いじめ自殺」の遺書公開（9月20日）鹿児島県で18日に自殺した中学3年生の両親が、「息子の死を無駄にしないで」と発表。暴力で金銭を要求された様子などが、実名入りで記されていた。

平成8年9月

1（日）●日本の自衛艦が初めて韓国を訪問。
2（月）●フィリピン政府とモロ民族解放戦線が和平文書に調印。二六年間の対立に終止符。
3（火）●米国、イラクの軍事施設をミサイル攻撃。
4（水）●横浜地裁、変額保険の説明不足を問い、横浜銀行と明治生命などに、一二億円支払い命令。
5（木）●大阪市が、二〇〇八年の五輪開催地に立候補（後に横浜市も立候補、平成9年大阪に決定）。
6（金）●政府管掌健保は三年連続赤字、平成七年度は赤字額二七八三億円と社会保険庁。
7（土）●インド外相、核武装の可能性を明言。
8（日）●沖縄県で、米軍基地めぐり初の県民投票。
9（月）●建設省、河川改修工事の大半を自然工法に。
10（火）●国連総会、包括的核実験禁止条約最終案採択。
11（水）●NTT、合理化で三万五〇〇〇人削減へ。
12（木）●東芝、双方向テレビを年内に発売と発表。
13（金）●新潟県の中学三年生・高橋素晴さんが、ヨットで単独太平洋横断に成功、最年少記録。
14（土）●ボスニア・ヘルツェゴビナで新国家の枠組みを決める選挙実施。
15（日）●利根川上流のダムの貯水率が、三三％に回復、首都圏の水不足にひと息。
16（月）●長岡市長宅に強盗、市長夫妻を一三時間監禁し、四〇〇〇万円奪って逃走（18日犯人逮捕）。
17（火）●米大リーグ、野茂英雄がノーヒットノーラン。
18（水）●北朝鮮の潜水艦が韓国に侵入し、乗員が上陸。
19（木）●日本眼科医会、安易な近視手術に警告。
20（金）●横浜地裁、坂本弁護士殺害事件で、オウム真理教の麻原彰晃被告らに約五億円の賠償命令。
21（土）●建設省、高速道路での事故車牽引・修理を、JAF以外にも開放する方針を決める。
22（日）●大相撲秋場所、貴乃花が四場所連続優勝。
23（月）●壱岐に日本最古の船着き場跡、と新聞に。
24（火）●テニスの伊達公子が引退を表明。
25（水）●エルサレムのトンネル工事強行で、パレスチナ住民とイスラエル軍が衝突、死者多数。
26（木）●領有をめぐり台湾などが抗議活動を続ける尖閣諸島で、香港の活動家が海に飛びこみ溺死。
27（金）●アフガニスタンの反政府勢力・タリバンが、首都・カブールを制圧、新政権が発足。
28（土）●日本移植学会、国会の臓器移植法案廃案を受け、独自の指針作成による移植推進を決定。
29（日）●兵庫県村岡町の国道で二重衝突、一一人死亡。
30（月）●プロ野球、来季から年間一三五試合に。

「FRIDAY」／市原利明

▲國松孝次警察庁長官銃撃事件で神田川捜索（10月27日）オウム真理教の信徒だった警察官の供述に基づき、警視庁が短銃さがし。しかし成果はなかった。

共同通信社

◀海上ヘリポートで離着陸（10月17日）日本返還が決まった沖縄県普天間飛行場の代替として実験。神奈川県横須賀沖に滑走路（メガフロート）を浮かべた。

◀尖閣諸島に中国国旗（10月7日）日本の政治団体が灯台を設置したことに対し、中国・台湾が領有権を主張。活動家200人が41隻に分乗、数人が諸島最大の魚釣島へ上陸して、国旗を立てた。

▶「クジラの町」、10年ぶり大漁（10月5日）和歌山県太地町沖合で群れを発見、漁船13隻が古式の追いこみ漁を行い、5時間半後、湾内に約100頭のコビレゴンドウクジラを追いこみ、捕獲した。

読売新聞社

朝日新聞社

▶岐阜・御嵩町長襲われる（10月30日）鈍器で殴られ重体。産廃処分場建設推進派の犯行とされた。町では翌年、住民投票を実施、大半が建設反対だった。

◀猿岩石、凱旋（10月26日）テレビ番組「進め！電波少年」の過酷な貧乏旅行で一躍人気者になった二人が、埼玉県の西武球場で観客3万人を前にライブ。

「FRIDAY」／結束武郎

読売新聞社

平成8年10月

1（火）●生保・損保の営業相互乗り入れがスタート。
2（水）●コスモ石油が、ガソリンスタンドにドライブスルー式クリーニング店併設を計画と新聞に。
3（木）●米の消費量は一人・一ヵ月三・四キロと、都消費者センター調査。
4（金）●東京・新宿に高島屋が開店。
5（土）●電話各社で定額割引制度広がる、ただし一定額でかけ放題の米国にはおよばず、と新聞に。
6（日）●中国で「もの余り」が深刻。生産力向上し需要伸びず、減産すれば雇用不安、と新聞に。
7（月）●幼女連続殺人事件の宮崎勤被告に、死刑求刑。
8（火）●英紙「サン」がダイアナ元皇太子妃が愛人と戯れている写真を掲載（後、虚偽とわかり謝罪）。
9（水）●テレビ朝日社員が、大麻所持で逮捕と判明。
10（木）●トヨタがベトナムで自動車生産を開始。
11（金）●OECD、韓国の加盟承認。アジアで二番目。
12（土）●テレビの歌番組が本格復権、と新聞に。
13（日）●住宅金融公庫の繰り上げ返済が一年半で一二兆円、公庫の損失は数千億円増、と新聞に。
14（月）●ニューヨーク株式、終値で初の六〇〇〇ドル。
15（火）●エボラ出血熱で一〇人死亡と、世界保健機関。
16（水）●グアテマラのサッカー試合で、観客が将棋倒しとなり、八〇人以上が死亡。
17（木）●セブン・イレブンの売り上げが、親会社のイトーヨーカ堂を抜いたことが判明。
18（金）●中国で羽毛持つ恐竜化石を発見と米学会発表。
19（土）●インドでデング熱、死者二一五人、と新聞に。
20（日）●小選挙区比例代表並立制初の総選挙。自民が復調したが過半数に達せず、単独少数政権に。
21（月）●在日米軍、米兵に自動車保険加入を義務づけ。
22（火）●証券の中間決算、準大手は大半が赤字と判明。
23（水）●覚醒剤取締法違反による検挙者急増と厚生省。
24（木）●警察庁長官銃撃事件で、元オウム信徒の警察官が犯行を認める供述をしていたことが判明。
25（金）●NEC、四ギガのDRAMを開発と発表。現在主流のパソコン用メモリの二五六倍の能力。
26（土）●プロ野球、巨人の松井秀喜が最年少MVP。
27（日）●中国の四川省で、四五〇〇年前と見られる墓壇跡を発見、「第五文明」の可能性と話題に。
28（月）●喫煙者人口、過去最低の三五・一％とJT。
29（火）●米の在庫、来秋には三六〇万トンと農水省。
30（水）●岐阜県御嵩町の柳川喜郎町長が、産廃処理施設建設計画をめぐるトラブルで襲われ重体。
31（木）●自治省、住民台帳番号制の法案化方針を決定。

共同通信社

▲オレンジ共済組合にメス（11月12日）高利の空約束で多額の預金を集めていた出資法違反容疑で、警視庁が捜索。写真は主宰の友部達夫参院議員。新進党比例名簿13位も、金で買った疑いが。

AP／WWP

▲ルワンダ難民、帰国（11月）1990年来のツチ族・フツ族内戦のため、近隣のザイールなどに逃れた数十万の人々が続々と戻った。しかし民族和解のめどは立っていない。

▼勝新太郎、咽頭癌を告白（11月22日）都内のホテルで3ヵ月ぶりに会見。声は役者の命と手術を拒否、今後は自宅で治すと一服し、「勝新節」健在に見えた。翌年、65歳で死去。

読売新聞社

▲阪和銀行に業務停止命令（11月21日）バブル期の投資が裏目に出て、1900億円もの不良債権を抱えた関西の第2地銀に、大蔵省が戦後初の断。写真は、預金を引き出そうと窓口に詰めかけた客。

共同通信社

▲伊達公子（26）、引退（11月22日）前年は世界ランク4位にまで上昇。おしまれつつ、8年間のプロテニス生活を終えた。写真は19日、ニューヨークの引退式で。

日刊スポーツ

ALL SPORT／AFLO PHOTO

▶タイソン（左）、まさかのＴＫＯ負け（11月9日）米・ラスベガスで行われた世界ヘビー級選手権戦で、ホリフィールドの果敢な攻撃に苦戦。防衛に失敗した。

平成8年11月

1（金）●松下電器と東芝、デジタルビデオディスク（DVD）・プレーヤーを発売。
2（土）●日米野球第二戦、ドジャースの野茂が登板。
3（日）●文化勲章に森英恵ら五人。
4（月）●欧州海洋考古学研究所、エジプトの海底で「クレオパトラの宮殿」を発見と発表。
5（火）●「体罰」による処分が過去最高と文部省。
6（水）●携帯電話が二〇〇〇万台、八ヵ月で倍増。
7（木）●米航空宇宙局、火星探査機「マーズ・グローバル・サーベイヤー」を打ち上げ。
8（金）●橋本首相、省庁再編は二〇〇一年までと明言。
9（土）●道路工事の交通整理、年間一〇〇億円の賃金払いすぎと会計検査院。
10（日）●伊豆大島・三原山の遊歩道が一〇年ぶり復活。
11（月）●郵政省、携帯電話など移動通信の本年売り上げを約四兆円と推定。
12（火）●インドで、航空機が空中衝突、三五〇人死亡。
13（水）●世界食糧サミット開幕。飢餓人口半減を採択。
14（木）●警視庁、誘拐を自作自演していた男を逮捕。
15（金）●登録文化財制度で初指定、小岩井農場本部事務所・東大安田講堂など一一九件。
16（土）●平成六年度の国民健保医療費、一人当たり二七万円と判明。
17（日）●ゴルフの尾崎将司、プロ通算一〇〇勝を達成。
18（月）●大阪地裁、末野興産の破産を宣告。
19（火）●安保理で、ガリ事務総長再選に米国が拒否権。
20（水）●東京都知事、食糧費の不正支出で処分発表。
21（木）●大蔵省、債務超過の阪和銀行に戦後初の業務停止命令。
22（金）●自治相、自治体の外国人採用を容認。
23（土）●アフリカ東海岸上空でエチオピア航空機が乗っ取られ墜落、一二五人死亡。
●バンダイ、携帯ゲーム「たまごっち」を発売。
24（日）●大相撲九州場所、千秋楽で五人が優勝決定戦。
25（月）●伊豆諸島・鳥島の新営巣地で、アホウドリのつがい二組の産卵を確認したと環境庁。
26（火）●栃木県今市市のウィングフィールドゴルフ倶楽部で、初の身障者ゴルフ選手権。
27（水）●運輸省、タクシーへの新規参入緩和方針表明。
28（木）●安全性が高いとされる安定型産業廃棄物処分場の四割で重金属など検出、と環境庁初調査。
29（金）●政府、介護保険法案を閣議決定。
30（土）●チェルノブイリ原発一号炉が稼働停止。三号炉のみ運転継続。

証言・あの日この日
柄谷行人（55）

9月10日（火）〈私は今ニューヨークのコロンビア大学にいる。ここで一年おきに教えているのだが、中上健次が病に倒れたのを聞いたのは、ここではなく、ニューヨーク州北部にあるコーネル大学にいたときだった。／それから四年半が経った。今や中上健次全集が完結している。さらに海外での評価も急速に高まっている〉（柄谷行人「中上健次全集完結の辞」）

デビュー当時から盟友として、お互いに切磋琢磨し、70年代、80年代の日本文学に新風を送り続けてきた作家・中上健次と批評家・柄谷行人。このコンビも、平成4年、中上健次の早すぎる死とともに終わる。残された柄谷は、葬儀委員長をつとめるとともに『中上健次全集』全15巻の刊行にも力を注ぐ。そしてようやくこの年、8月に『中上健次全集』は完結する。（山崎行太郎）

「FRIDAY」／結束武郎

◀土石流で14人が行方不明（12月6日）長野県小谷村で発生、建設中の治山ダムを破壊、砂防工事中の出稼ぎ労働者らを呑みこんだ。付近は、土砂流出の危険地帯だった。

ロイター・サンテレフォト

▲リズ、エイズワクチン開発を提唱（12月2日）ニューヨークの国連本部で世界エイズデーにちなむ講演会が行われ、女優のエリザベス・テーラーが訴えた。

共同通信社

▲通産省、事務次官ら6人を処分（12月5日）幹部職員の3分の1が、石油卸商の泉井純一から、饗応やゴルフ接待を受けていたことが発覚。佐藤通産相（写真）は「綱紀のたるみ以外の何物でもない」と謝罪。

▶林泰男容疑者、逮捕（12月3日）1年半以上の逃亡のすえ、同志の女性と石垣島で。林は、オウム事件のほとんどに加担したとされる元幹部。写真は東京に護送される林。

▼カラー柔道着着用へ（12月10日）世界の流れに抗しきれず、日本柔道連盟が、ようやく試験的な着用を認めた。写真は、8日に行われたデモンストレーション。

共同通信社

平成8年12月

1（日）●東京二三区で事業系ゴミの全面有料化を実施。
2（月）●日米特別行動委、普天間基地の代替ヘリポートは海上が最善と最終報告書。
3（火）●米国防総省、月に大量の氷があると発表。
4（水）●警視庁、岡光序治前厚生省事務次官を収賄容疑で逮捕。
5（木）●世界遺産に広島の原爆ドームと厳島神社。
6（金）●長野県小谷村で土石流、一四人行方不明。
7（土）●大蔵省、自動車保険の自由化方針決める。
8（日）●携帯電話を飛行船二〇機で全国くまなくカバー、二〇〇二年めざし郵政省が新計画。
9（月）●世界貿易機関（WTO）、初の閣僚会議開催。
10（火）●全日本柔道連盟、カラー柔道着の試用決定。
11（水）●イラク、六年半ぶりに原油輸出再開。
12（木）●米航空宇宙局、ロシアの宇宙船「ミール」で、宇宙で初めて小麦を収穫と発表。
13（金）●国連事務総長にガーナのアナンを選出。
14（土）●政府、焼酎税率を最大二・四倍とし、ウイスキーの税率を五八％下げる方針を決定。
15（日）●ボーイング社、マクドネル・ダグラス社を一三三億ドルで買収すると発表。
16（月）●厚生省、汚職事件で一六人を処分。
17（火）●ペルーでゲリラが日本大使公邸を占拠。
18（水）●仙台市民オンブズマン、官官接待問題で、中央省庁の二三人相手に食糧費返還求める訴訟。
19（木）●首都機能移転候補地の選定が始まる。
20（金）●地方分権推進委、機関委任事務廃止など勧告。
21（土）●世界知的所有権機関、インターネットに著作権を適用。
22（日）●米の日本車シェアが過去最高の勢いと新聞に。
23（月）●太陽工業が、屋根や二階の落下を支える「地震用エアバッグ」を開発、と新聞に。
24（火）●平成七年の「いじめ」、最多の六万件と文部省。
25（水）●川崎公害訴訟で、原告と被告企業が和解。
26（木）●高松地裁、「豊島産廃訴訟」で、撤去と慰謝料支払いを業者に命令、住民側請求を全面支持。
27（金）●国民健康保険、平成七年度は一〇六九億円の赤字と厚生省。
28（土）●警視庁が「ストーカー」被害実態調査結果発表。
29（日）●新生児の名前、男は翔太・健太・大輝、女は美咲・彩・明日香がベストスリーと明治生命調査。
30（月）●マレーシアの国民車メーカー・プロトンが、操業一一年で生産台数累積一〇〇万台達成。
31（火）●レコード大賞に安室奈美恵。史上最年少。

流行語
それを言っちゃおしまいよ

「老人三語族」。「ウッソー!」「ホント?」「かわいい!」という、女の子の三語族が流行したのは数年前。この年流行した三語族は、彼女らと違って「どうせ」「今さら」「もう（どうでもいい）」という言葉を連発する人。これが出始めたら老人という意。

「キムタコ」。女子高校生用語で、キムタク（SMAPの木村拓哉）のまねをしているが、全然さまになってない男の子のこと。

「高デビュ」。これも女子高校生用語で、高校に入学してから派手に遊び始める女の子のこと。高校デビューの略。

「カーナビ男（お）」。車のカーナビの指示どおりに運転する男という意味だが、OLの間では上司から指示されるか、マニュアルがなければ、何もできない若者をさす言葉として使われた。

「ハミ婚」。派手な結婚式と、地味な結婚式の中間。具体的には披露宴でキャンドル・サービスや花束贈呈をはぶいた結婚式をさす。

◀この年、関東地方はカラ梅雨で、7月には渇水が深刻化した。神奈川県では7割の住民に給水制限。写真は干あがった津久井湖。

朝日新聞社

社会
ここまできた墓不足 立体駐車場式納骨堂

東京・北区の萬栄寺というお寺に、全国初の立体駐車場式納骨堂がお目見えした。

納骨堂は鉄筋コンクリート二階建てのお寺の二階に設けられ、広さ約六六平方メートル。壁面の幅四・七メートル、高さ二・八メートル、奥行き二・一メートルの場所に、一〇二の納骨スペースを持ったシステムがはめこまれている。拝壇脇の機械にカードを入れると、納骨スペースが立体駐車場のようにまわり、正面の扉が開いてお参りする骨箱が出てくるシステム。

これを開発したのは「三緑」という会社で、僧侶である社長が物流機器メーカーと提携して作った。萬栄寺では、一スペース（骨壷二個収納）を一三〇万円で信徒に分けているが、評判は上々という。

（「毎日新聞」五月一一日）

美容
銀座で新しい戦争? 女性専用マッサージ

東京・銀座のデパート「プランタン銀座」にオープンした女性専用マッサージ店が、一日約五〇人もの利用客でにぎわっている。店の名は「プチ・サンテ」と言い、オープンしたのは今年二月。四〇分のリラックス・マッサージが四八〇〇円、植物性オイルを使って心身のリラックスをうながす「アロマ・マッサージ」が、やはり四〇分で八〇〇〇円と他店より高めだが、客もマッサージ師も女性だけという〝差別化路線〟が成功して、OLや買い物帰りの母娘などに大人気。

これを見て松坂屋銀座店でも、七月から同様の店をオープン。銀座に新しい競争が起きている。

（「京都新聞」八月二二日）

CM100年
テレビCF「愛してる人と、ピーしてる――PHS」（アステル東京）

タレント・前園真聖

文化
藤沢で一三編発見 小学生・龍之介の作品

〔藤沢発〕芥川龍之介が小学生時代に参加した手書きの雑誌が、藤沢市文書館で発見された。龍之介の甥（おい）にあたる文芸評論家・葛巻義敏さん（故人）の資料、約三〇〇〇点が同文書館に寄贈され、館員が整理中に見つけた。

雑誌は「日の出界」の「臨時発行　日ノ出海」と、同じく「お伽（とぎ）一束」の二冊。墨の筆書きで、いずれも半紙二〇枚くらいのものが和綴じにしてある。この雑誌に龍之介は「芥川龍之助」「芥川渓水」といった名前で、「夜」という作品や編集後記など一三編を寄せている。また二冊とも表紙のイラストは龍之介が描いたものといわれており、天才と言われた作家の少年時代を知るうえで、きわめて貴重な資料となっている。

（「神奈川新聞」七月二三日）

▲松本大洋作画「ピンポン」の連載が、「ビッグコミックスピリッツ」3月25日号から始まった。大好評で、ほかのマンガ家にも影響を与えた。

©松本大洋　小学館

三面記事
東大に登場、「おたく文化論」

▲10月4日、東京・新宿新南口に高島屋がオープン、〝新宿百貨店戦争〟が起こった。

共同通信社

四月から東京大学教養学部で、岡田斗司夫（としお）講師によって「おたく文化論」というゼミが開講する。

岡田講師はおたく学の手始めに、インターネット最大の検索エンジン「Lycos」で「OTAKU」をキーワードに全世界のホームページを検索したところ、四一九件ヒットした。

さらにそれらのホームページにジャンプすると、フランス、イタリア、ドイツ、イギリス、ノルウェー、フィリピン、メキシコなど、アメリカ以外でもおたく系ホームページはびっくりするくらい多いことがわかった。日本では「暗い、ださい、友達いない」と差別語っぽいおたくだが、すでに全世界の共通語となっており、しかも海外では誇らしげに、おたくを自称しているのだ。

同講師によると「おたく文化を教養にまで高めること」がゼミの目的だという。

（「AERA」三月二五日号）

スポーツ
ここでも女性の時代 早くも人気、女子相撲

〔大阪発〕四月、女子相撲の団体「日本新相撲連盟」が発足した。「あらゆるスポーツに女子部門があるのに、相撲だけにないのはおかしい」というのが発足の弁。

ルールのほとんどは相撲と同じだが、土俵の代わりにマットを使用する。着衣は男子のように「まわし」だけというわけにはいかないため、レオタードにパンツ（まわし代わりのベルトが腰についているもの）というのが新相撲ルック。

大阪市内の事務局には全国から問い合わせが相次ぎ、すでに約三〇人が選手登録をすませた。その中には女子高生や女子大生、キックボクシング歴のある主婦もまじっている。東京や九州の大学では、新相撲部創設の動きもあるという。

連盟では平成九年一月に第一回日本選手権大会を開き、将来はオリンピックに参加したいと張りきっている。

（「産経新聞」大阪版　七月六日）

海外
深刻、インターネット病 まわりのすべてを捨て没頭

〔ニューヨーク発〕最近、医師らによってインターネット中毒疾患（IAD）と命名された病気がある。ある高校生（一六）の場合、コンピュータのある部屋に住みつき、徹夜でキーボードに向かい、昼間は眠り続け、怒りっぽくなり、現実生活のすべてを放棄し、学校を中退した。

このように従来の人間関係、恋人、家族、宿題などすべてを捨て去り、まわりのものには患者に何が起こっているのかわからないのが特徴。患者の中で最も多いのが中年の主婦で、平穏でそれなりに恵まれた生活を送っていたのが、インターネットを通じ、突然、刺激に満ちた世界に目覚めるのだという。

（「上毛新聞」五月二二日）

共同通信社

◀一〇月一日、通信衛星使用のデジタル放送「パーフェクTV」が放送開始。

この年の初もの
神戸にオープン うさぎ専門店

●福祉自動車　トヨタと日産が、車椅子（いす）に座ったまま乗り降りできる乗用車を発売。

●ドライブスルー郵便局　車に乗ったまま貯金の出し入れや、ポスト投函（とうかん）ができるもので、愛媛県松山市に開局。

●無添加タバコ　アメリカの先住民が吸っていたタバコのルーツそのもののタバコ、「ナチュラル・アメリカン・スピリッツ」が日本で発売。二〇本入り二五〇円

はやり歌

アジアの純真

作詞　井上陽水
作曲　奥田民生

北京　ベルリン
ダブリン　リベリア
束になって　輪になって
イラン　アフガン
聴かせて　バラライカ
美人　アリラン
ガムラン　ラザニア
マウスだって　キーになって
気分　イレブン
アクセス　試そうか
開けドア　今はもう
流れでたら　アジア
白のパンダを
どれでも　全部　並べて
ピュアなハートが
夜空で　弾（はじ）け飛びそうに
輝いている　火花のように

▶奥田民生がプロデュースした女性デュオ、PUFFYが歌った。由美、亜美の自然なイメージが好評だった。

EPICレコード提供

BELOVED

作詞　TAKURO
作曲　TAKURO

もうどれくらい歩いてきたのか?
街角に夏を飾る向日葵（ひまわり）
面倒な恋を投げ出した過去
想い出すたびに切なさ募（つの）る
忙しい毎日に溺（おぼ）れて
素直になれぬ中で
忘れてた大切な何かに
優しい灯がともる
やがて来る
それぞれの交差点を迷いの中
立ち止まるけど
それでも　人はまた歩き出す
巡（めぐ）り合う恋心
どんな時も自分らしく
生きてゆくのに
あなたがそばにいてくれたら
AH　夢から覚めた
これからもあなたを愛してる

◀TBS系のテレビドラマ「ひと夏のプロポーズ」テーマソング。人気ロックバンド、GLAYが歌ってヒットした。

アンリミテッドレコード提供

読売新聞社

▶写真シール（プリクラ）保存に便利と、システム手帳が若い女性の間で大人気。

世界の動き

ダイアナ妃「離婚」までの苦悩

一五年目に終止符を打った「世紀の結婚」
スキャンダル、暴露合戦で英王室にダメージ

▲離婚が発表されたこの年7月12日、警察官とカメラマンがもみあう中、ロンドンのホテルを出るダイアナ妃。

◀1997年9月6日、ウエストミンスター寺院でいとなまれたダイアナの葬儀で。右からチャールズ皇太子、ヘンリー王子、ダイアナの弟・スペンサー伯、ウィリアム王子、エジンバラ公。
ロイター サンテレフォト（見開き3点とも）

一九九六年七月一二日、英国のチャールズ皇太子とダイアナ妃の離婚が発表された。一六九四年のジョージ一世以来約三〇〇年ぶりの英国皇太子の離婚である。カンタベリー大司教が「おとぎ話」にたとえ、世界中から祝福された「世紀の結婚」から一五年一ヵ月、〝ダブル不倫〟に暴露合戦と、公然と繰り広げられた泥仕合にやっと終止符が打たれたのだ。

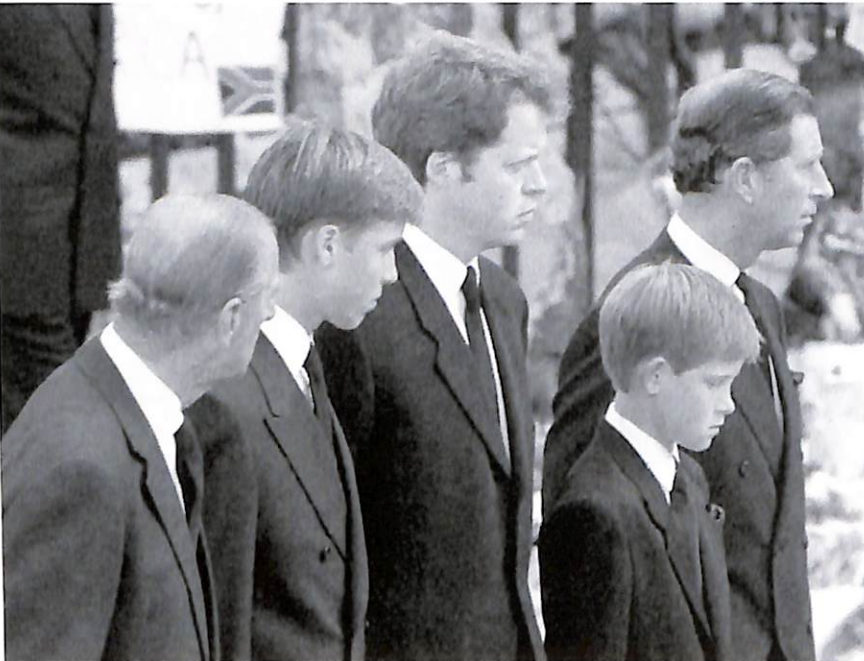
離婚〝闘争〟に粘り勝ち 国民も醜聞にうんざり

かつて、世界中をクギ付けにした〝ロイヤル・カップル〟にしてはあっけない幕切れだった。

「両陛下は離婚に合意されました——」

チャールズ皇太子（四七）とダイアナ妃（三五）の離婚が、弁護士を通してバッキンガム宮殿から発表されたのは、一九九六年七月一二日夕方。

この日、チャールズ皇太子は午前中からロンドン南部のブリクストンで開かれた集会に出席。

一方のダイアナ妃は、発表前に、住居のケンジントン宮殿を黒塗りの車で立ち去り、ロンドン市内のホテルにブルーのツーピース姿で現れた時には、終始口を横に結んだ硬い表情で、報道陣のフラッシュにもたじろぐ様子はなかった。

発表された離婚条件の中身は、「ハー・ロイヤル・ハイネス（妃殿下）」の称号は返上するものの、ダイアナ妃は離婚後も王族の一員にとどまり、ケンジントン宮殿の居住権を持ち、ウィリアム王子（一四）とヘンリー王子（一一）の養育に平等の責任を負うというもの。最大の焦点だった慰謝料は公表されなかったが、一五〇〇万ポンド（当時で約二六億三四〇〇万円）前後の一時金と、個人事務所の経費として年間四〇万ポンド（約七〇〇〇万円）を皇太子が支払うとみられた。

この年二月二八日の「離婚同意」から双方の弁護士による交渉のすえ、ダイアナ妃が要求の大半を呑ませたのである。

その後、ロンドンにあるサマーセットハウス地方裁判所での仮決定を経て、八月二八日午前一〇時二七分、あっけなく二人の離婚は法的に成立した。

ダブル不倫、ダイアナ妃と王室の確執（かくしつ）、マスコミでの暴露合戦と、醜聞にうんざりしていた英国国民は、「二人が別れるのは当然」「これで静けさが戻る」といった冷（さ）めた見方が一般的だった。

タブーの残る王室に 感情を隠さずに挑戦

一九九二年から別居し、離婚は時間の問題と見られていた皇太子夫妻だったが、破綻（はたん）の端緒（たんしょ）は、実は結婚前からあった。

王室の重圧、夫の自分への無関心からくる孤独感で、ダイアナ妃は婚約時代からノイローゼにかかっていたと言われる。生クリームをかけたコーンフレークを暴食しては吐き続ける「過食症」は、婚約一週間後から始まっていた（アンドリュー・モートン著『ダイアナ妃の真実』）。

さらに彼女を悩ませたのが、チャールズ皇太子と彼の初恋の人であるカミラ夫人とのただならぬ関係だった。

結婚式の二日前、皇太子がニックネームの頭文字をからめたアクセサリーをカミラ夫人に贈ったという「ブレスレット事件」で二人は言い争い、結婚後は、妊娠四ヵ月のダイアナ妃が、サンドリンガム宮殿の階段から身を投げる「階段落下事件」も起きていた（何かの拍子につまずいたという説もある）。

そんなチャールズ皇太子の不貞疑惑を決定づけたのが、一九八九年一二月に盗聴されたテープだ。皇太子は、電話でカミラ夫人に愛をささやく。

「君のすべてを感じたいんだ。君の体中を上へ下へと……特に、内へ外へとね」

カミラ夫人も甘い言葉で応じた。

「あなたが欲しいわ、今すぐ。とっても、とっても」

これを裏づけるように、一九九五年一一月、BBCテレビのインタビューで、ダイアナ妃は「私たちの結婚生活には始めから人が三人いました」と、愛人の存在に悩み続けてきた胸の内を語った。

「英国王室には、王族が寵妃（ちょうひ）を持つのは当然と考える風習がありました。有名なのがエドワード七世（一八四一〜一九一〇）とカミラ夫人の曾祖母にあたるアリス・ケッペル夫人との愛人関係です。皇太子もカミラ夫人も結婚外の愛に罪悪感はなかった。アスコット競馬場の王室席に、平気でカミラ夫人を招待する王室の道徳観の中では、三角関係の結婚生活を受け入れられないダイアナ妃の方が〝異常〟だったわけです」

と語るのは、神奈川大学の石井美樹子教授だ。

▲この年8月22日、南フランスのサン・トロペでクルージングを楽しむダイアナ妃と恋人のアルファイド。

外から見たNIPPON

日中混血の詩人・黄瀛が回想する宮沢賢治との出会い

――佐伯　修

詩人・宮沢賢治の生誕一〇〇年にあたるこの年、中国四川省在住の詩人・黄瀛（一九〇六〜）は、来日して、花巻、東京で賢治を偲ぶ講演を行った。中国で使われる〝かぞえ〟で九二歳の黄は、八月二七日、花巻の「宮沢賢治国際研究大会」で行った講演で、六七年前の昭和四年春、病床の賢治を、花巻の実家に見舞った折の印象を次のように語っている。

「私は『五分間でもいいから会いたい』と言ったら、宮沢賢治は私の名を聞いてすぐに上がらせて話をしました。そして、話は一時間半くらいしました。ずいぶん長いですね。その時の宮沢賢治はご病気で、それにもかかわらず、枕を背に掛けて起き上がろうとしたのを止めさせて話をしました。（中略）そして、二人が話をした時には決して『君の詩はうまい。俺の詩も悪くない』なんて言いません。二人が話の中で意気投合しまして、話が弾んだんですね。その時、私は宮沢をよく見たところ、病気ですからハンサムではなくてブスでした。しかし、

▶文革後、重慶で日本語教育にあたる。

佐藤竜一提供

宮沢は病気だからブスなので、詩人としての威厳はちゃんと持っていました」（「いよよ弥栄ゆる宮沢賢治」）

また、黄は同月三一日に、東京で行った同じ題の講演で、後に上海で魯迅に賢治のことを話した時、魯迅が「その人はどうか？　どうか？」と、賢治に強い関心を示したとも述べている。黄とのたった一度の対面から四年後、賢治は世を去った。

中国人を父、日本人を母とする黄は、早く父を亡くし、母の郷里・千葉県や、青島の日本人学校、東京の文化学院などで学んだ。ハイティーンで、日本語の詩が高村光太郎らの大家から絶讃され、草野心平たちと詩誌「銅鑼」を拠点に活躍した黄は、詩集『瑞枝』などによって、日本の文学史上に名を残す存在となっている。

そんな黄は、賢治の生前、日本の詩壇では賢治より有名だったが、父の国で軍人となる決意を固め、日本の陸軍士官学校に進学する。そして、その卒業旅行の宿泊地に花巻も入っていることを知った彼は、上官に特別許可をもらって、このまだ無名だが、注目すべき詩人を訪ねたのだった。

だが、日中戦争により、抗日側の軍人となった黄の消息は絶え、中華人民共和国成立後は、国府軍の将官だった黄は迫害される。それでも、草野や木山捷平らとの友情だけは、不死鳥のように何度も蘇った。

「自分の存在自体が詩でありたい」（佐藤竜一『黄瀛――その詩と数奇な生涯』より）

――平成四年の黄の述懐である。

その結果、心のすき間を埋めるようにダイアナ妃は、さまざまな男性と浮き名を流し、エイズ患者救済や地雷撲滅などの慈善活動にも深くかかわっていく。

一方、『ダイアナ妃の真実』の出版（一九九二年六月）、愛人と噂されたジェームズ・ギルビーとダイアナ妃の盗聴テープの公表（同年八月）、皇太子のテレビでの不倫告白（一九九四年六月）と、二人は暴露合戦を続け、離婚は決定的となる。

この泥沼の離婚劇によって、王室は次期国王の資質や、王室の存続まで
も疑問視される致命傷を負い、対照的に人々の共感を得たのがダイアナ妃だった。

「夫の不倫や姑との確執など誰もが経験する問題をめぐり、閉塞的で古いタブーが残る王室と感情を隠さずに闘い、道を切り開いたこと、その熱心な慈善活動でもわかるように、白人主義の社会に生まれながら彼女が英国女性の枠を超えていたことがその理由でしょう。最後の恋人がイスラム教徒のエジプト人だったのは、階級、民族、宗教を超越した彼女の人間性を象徴していました」（石井教授）

ところが、一九九七年八月三一日午前零時すぎ、ダイアナ妃とその恋人のドディ・アルファイド（当時・四一歳）が乗った車が、パリ市内で中央分離帯の支柱に激突。午前四時、彼女は運ばれた病院で三六歳という短い生涯を終えてしまう。

一〇〇万人以上の国民が葬儀に押し寄せ、泣き崩れるという異常な現象を目のあたりにして初めて、王室はダイアナ人気のすさまじさに気づかされたのである。

「そこで今、王室は開放的で親しみやすかったダイアナ妃を見習う改革に取り組んでいます。マスコミ嫌いで冷たいイメージだった皇太子が、視察先で人々と気さくに語り、王子の父親の役目もしっかりはたす――こうしたイメージアップの甲斐あって、国民の支持を回復しつつあります」（石井教授）

彼女の悲劇的な生涯は、英国階級社会の頂点に安住していた王室を揺るがし、改革を迫る効果ももたらしたのである。

◀一九九七年八月三一日、ダイアナ妃と恋人のアルファイドが乗った車が、パリで支柱に激突し、二人とも死亡。

ロイター　サンテレフォト

ダイアナ妃（1961〜1997）
英国の八代スペンサー伯の末娘。幼稚園の保母を経て、一九八一年チャールズ皇太子と結婚。九二年から別居生活、九六年離婚。九七年事故死。

チャールズ皇太子（1948〜）
英国女王エリザベス二世の第一皇子で王位継承者。父はエジンバラ公。一九五八年皇太子。八一年ウィリアム王子、八四年ヘンリー王子をもうける。

往きて還らぬ

▲1月7日　岡本太郎（84）
芸術家。父は岡本一平、母は岡本かの子。大阪万博の「太陽の塔」を制作。〝芸術は爆発だ！〟のCMでも知られる。

◀1月21日　横山やすし（51）
漫才師。西川きよしとコンビを組み、スピーディーな話術で人気に。最後の〝破滅型芸人〟と言われた。写真左。

▲2月20日　武満徹（65）
現代音楽の作曲家。1967年「ノヴェンバー・ステップス」をニューヨーク・フィルが初演、世界的名声を獲得。

共同通信社

▲6月10日　宇野千代（98）
小説家。女の情念の世界を描く。画家・東郷青児など男性遍歴でも有名。代表作に『色ざんげ』『おはん』など。

▲8月15日　丸山真男（82）
東大名誉教授で、戦後日本の代表的知識人。主著に政治思想史の分野で影響を与えた『現代政治の思想と行動』。

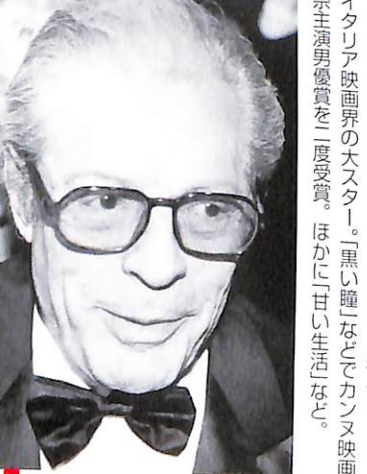
毎日新聞社

▲9月29日　遠藤周作（73）
小説家。昭和30年『白い人』で芥川賞受賞。〝狐狸庵先生〟の愛称でも親しまれた。ほかに『海と毒薬』『沈黙』など。

▲1月8日　三橋美智也（65）
歌手。民謡調のはりのある歌声で、「リンゴ村から」「哀愁列車」などヒットを連発、戦後の歌謡界をリードした。

▲3月17日　ルネ・クレマン（82）
仏の映画監督。アラン・ドロンの出世作「太陽がいっぱい」、名作「禁じられた遊び」などで知られる。

共同通信社

▲6月10日　フランキー堺（67）
俳優。映画「駅前」シリーズ、テレビドラマ「私は貝になりたい」などに主演、人間味あふれる個性で愛された。

◀12月19日　マルチェロ・マストロヤンニ（72）
イタリア映画界の大スター。「黒い瞳」などでカンヌ映画祭主演男優賞を二度受賞。ほかに「甘い生活」など。

▲1月8日　F・ミッテラン（79）
仏の政治家。1981年から14年間大統領をつとめ、死刑制度を廃止。92年、南太平洋での地下核実験中止を発表。

▲3月28日　金丸信（81）
政治家。国土庁・防衛庁各長官、副総理など要職を歴任したが、平成4年、5億円献金問題が発覚し、議員辞職。

▶9月23日　藤子・F・不二雄（62）
安孫子素雄とコンビでマンガを描く。「ドラえもん」は単行本約一億部を販売。ほかに「パーマン」など。写真左。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第97号 1月26日(火)発売 定価560円 毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1997[平成9年]

●特集
神戸児童連続殺傷事件！ 「酒鬼薔薇聖斗」の"心の闇"／一四万人のボランティアが活躍 「ナホトカ号」重油六〇〇〇kℓ流出！／少女たちの"つながり願望"と「たまごっち」「プリクラ」大ブーム！／大英帝国が交渉で"完敗"した瞬間 香港、一五五年ぶりに返還！

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…松田聖子、神田正輝と離婚(1月10日)／鄧小平、死去(2月19日)／動燃の再処理工場で火災・爆発(3月11日)／タイガー・ウッズ、マスターズ制覇(4月13日)／英国新首相に労働党・ブレア(5月2日)／永山則夫の死刑執行(8月1日)／ダイアナ元英皇太子妃、国民葬(9月6日)／金大中、韓国新大統領に(12月18日)

●人物クローズアップ
北野武、ベネチア国際映画祭金獅子賞！

●決定的瞬間
鉄の扉二九三枚が諫早湾を閉め切った！

●美の出会い
「ルーブル美術館展」と"発見の喜び"

●女たちの肖像…殺人犯・福田和子の"魔性"／勝者・敗者…岡田武史監督の決断とW杯初出場／証言・あの日この日…森浩一、草野満代／「現場」を歩く…名護、米軍ヘリポート建設予定地／20世紀博物館…宝くじドリーム館(東京)／外から見たNIPPON…翻訳家・アーシーと日本語

●ベストセラー…『失楽園』『少年H』／スターと名場面…「もののけ姫」／モノ語り'97…「キシリトール・ガム」

ミニ事典

1996年のキーワード

菅官戦争

厚生大臣になった新党さきがけの菅直人と、厚生省官僚との、薬害エイズ訴訟にからむ対立。菅は一月一一日、厚相就任とともに真相究明のための調査班を組織。慣例を盾に情報公開を拒む、厚生省官僚に戦いを挑んだ。二月九日、調査班は、それまでないとされていた非加熱製剤認可の経緯を記した書類を発見して、公表。厚相は原告団に全面謝罪。官僚機構の厚い壁に、風穴が開いた。

▶「発見」された、昭和五八年当時の厚生省生物製剤課長の「AIDS」文書。 共同通信社

食糧費

地方自治体の予算の中で、予算書・決算書には細目を掲載する必要のない、会議の茶菓子代・弁当代など。市民団体などが情報公開条例を利用して調査したところ、「官官接待」の温床になっていることが判明。また、県が中央官僚の名前を使って架空懇談会を開く不正も明らかになった。一月二六日、宮城県は食糧費についての懇談相手の個人名の開示を決定。同様の動きは全国に広がった。

TBS坂本弁護士ビデオ事件

平成元年、TBSテレビが、オウム真理教に批判的だった坂本堤弁護士のインタビューテープを、放送前に同教団幹部に見せていた事件。三月一二日に東京地裁で始まった、坂本弁護士一家殺害事件の審理の過程で明らかになったが、教団幹部の早川紀代秀被告らは、ビデオの視聴ばかりか、TBSに放送を中止させていたことがわかった。殺害事件が起きたのがその九日後だっただけに、TBSの報道姿勢に対する非難は強かった。

▶三月二五日、TBS首脳は、ついにビデオを見せていたことを認めた。 読売新聞社

三菱自動車セクハラ訴訟

三菱自動車の米国法人が、多数の女性従業員が受けたセクハラを容認していたとして、米連邦雇用機会均等委員会に訴えられた事件。四月九日提訴。会社は事実無根を主張したが、全米女性機構などが三菱の不買運動などを起こしたため軟化。翌年一月、黒人や女性のビジネスチャンス拡大などを約束、また原告のほとんどは和解に応じた。

おやじ狩り

中高年のサラリーマンをおどし、金品をまきあげる少年犯罪。東京都江東区で五月に起きた、高校生を含む少年数人が帰宅途中の男性を襲い、殴る蹴るの暴行を加えたうえ金を奪った事件など、この年多発。携帯電話を利用して「獲物」を物色するなど、遊び感覚の少年たちも多く、金を持っていて弱そうな中高年男性を対象にすることから、「いじめ」の一変形とみなす見方もあった。

公的年金の一元化

年金制度を財政的に安定させ、各制度の間で格差を生じないように、産業別などに分かれている年金を統合すること。六月の国会で、それまで八つに分かれていた被用者年金を五つにする厚生年金法改正が成立。翌年からJR・JT・NTTが厚生年金に加入、第一歩が印された。JRの共済年金は、被保険者二〇万人に対し年金受給者が三一万人もいたため、財政困難におちいっていた。

KKC事件

「画期的な利殖」の甘い言葉を掲げ、全国の会員から巨額の資金を集めていた詐欺事件。KKCは経済革命倶楽部の略称。六月五日、警視庁などが、預り金を禁じている出資法違反容疑で、東京・赤坂の本部など全国の関連施設八五ヵ所を家宅捜索。二一万円を払って入会すれば、新会員紹介ごとに一二万円の配当が得られるという儲け話につられて、会員になった人は約二万人もいた。

パチンコ熱中症

主婦に広がるパチンコ依存症。東京都足立区で、六月一五日、若い母親がパチンコに熱中している間に、車内に放置された幼児二人が脱水症状を起こして死亡する事件が起きた。このほか、幼児が水死、連れ去られた、行方不明になったなどの事件が多発。パチンコ人気の高まりは、ギャンブルに免疫のない層にファンを広げ、わが子の存在を忘れるほど依存する「熱中症」患者を生み出した。

▲8月、青森県のパチンコ店には、「子連れ入場お断り」の貼り紙が掲示された。 共同通信社

直噴ガソリン・エンジン

ガソリンを燃焼室に直接噴射することで、超希薄燃焼を実現した自動車用エンジン。出力で一〇パーセント、燃費は三〇パーセント以上も向上するとあって、二一世紀のエンジンとして世界の注目を集めた。八月二九日、三菱自動車工業が新型「ギャラン」に「GDI」の名で搭載して発売、先鞭をつけた。一二月にはトヨタ自動車も、同様の「D・4」エンジンを搭載した特別仕様の「コロナ」を発売した。

CTBT

包括的核実験禁止条約。地下核実験を含むすべての核実験、核爆発を禁止し、そのための国際的監視システム、現地査察などからなる検証体制の確立などをうたった国際条約。九月一〇日、国連総会で一五八ヵ国にのぼる圧倒的多数の賛成を得て採択。しかし、核保有疑惑のあるパキスタン、インド、イスラエルを含む四四の指定国の批准が発効条件となっており、見通しは立っていない。

スペースガード計画

地球とニアミスする可能性がある天体の観測網作りなどを、国際的規模で行う計画。一九九四年(平成六)、シューメーカー・レビー彗星が木星に衝突したのを契機に、各国政府や研究機関が協力、この年三月に、ローマを本部に国際スペースガード協会が創立され、一〇月二〇日には日本支部も発足した。地球に衝突しそうな彗星や小惑星の発見と軌道決定、見つかった場合の対策などを総合的に研究する。

週刊YEAR BOOK/日録20世紀 1996

CONTENTS

●特集

●ニュース・ファイル

●モノ語り'96

●人物クローズアップ

●決定的瞬間

●美の出会い

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室(茂村巨利)+渡邊裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 (株)エーピーシープレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ (有)マックス (有)マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 森邦久 結城順一 吉田忠正

●写真協力
池田栄次 市原利明 伊藤久美子 上本正春 結束武郎 佐藤竜一 但馬一憲 長谷忠彦 原田浩司 松本大洋 山口規子
朝日新聞社 AFLO PHOTO AFP AP ALL SPORT 共同通信社 サン サンテレフォト 時事通信社 小学館 日刊スポーツ PANA通信社 「FRIDAY」 文藝春秋 報知新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 ロイター WWP アンリミテッドレコード EPICレコード カルチュア・パブリッシャーズ 大映 群馬県企画部 島根県教育委員会

定価560円

雑誌 23711-2/2
Ⓛ 2001/1/1
T1123711020569

©KODANSHA 1999 Printed in Japan
印刷　凸版印刷株式会社　製本　大村製本株式会社